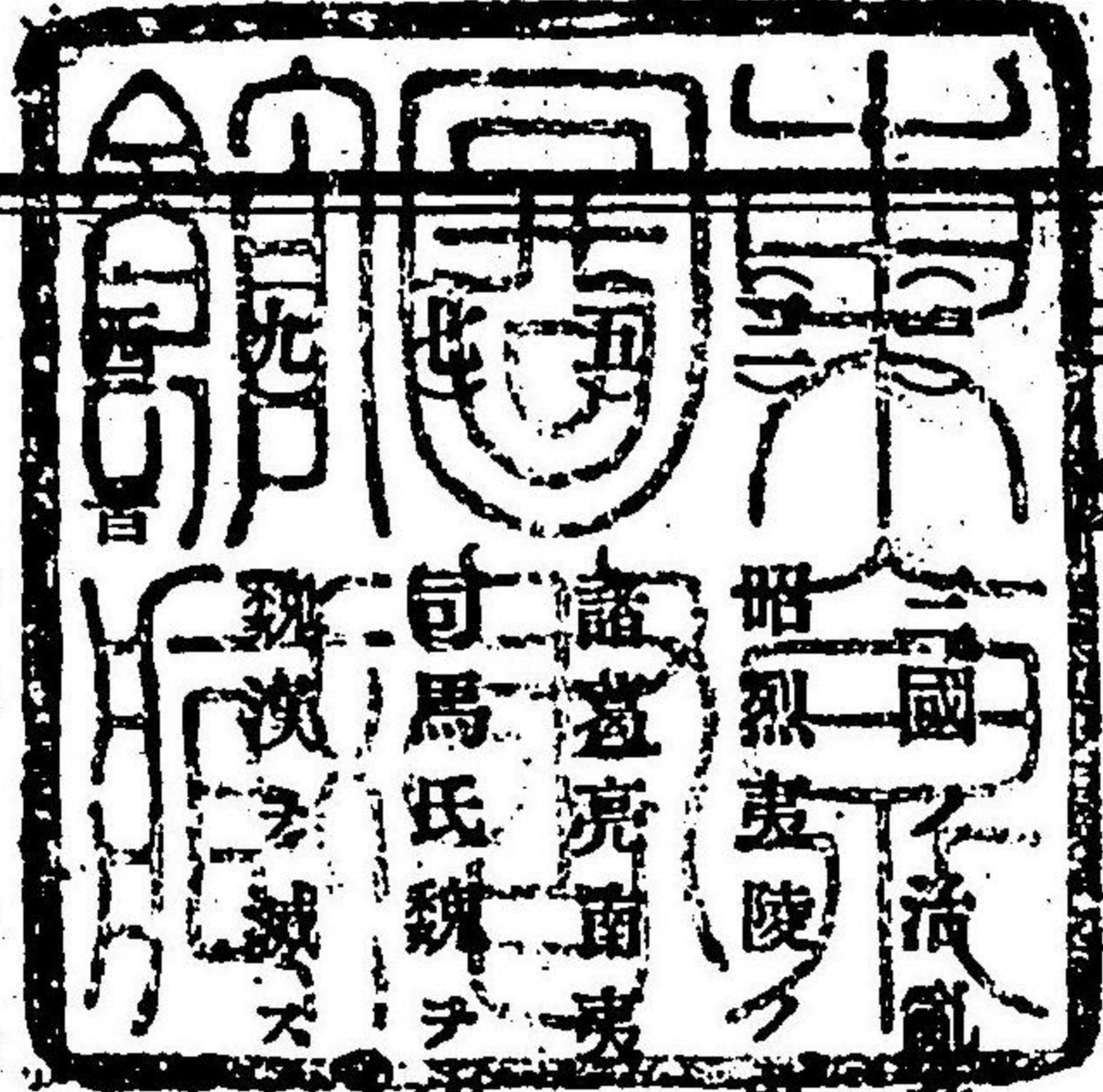


特20  
142

No 10268

綱要支那歴史卷ノ三目錄



(一) 魏孫權ヲ封シ吳王

(二) 諸葛亮遺詔ヲ受ケ政ヲ輔ク

(三) 諸葛亮魏ヲ伐ツ

(四) 孫綝ノ廢立

(一) 西晋ノ治亂興亡

(二) 杜預吳ヲ滅ス

(三) 何后ノ凶險

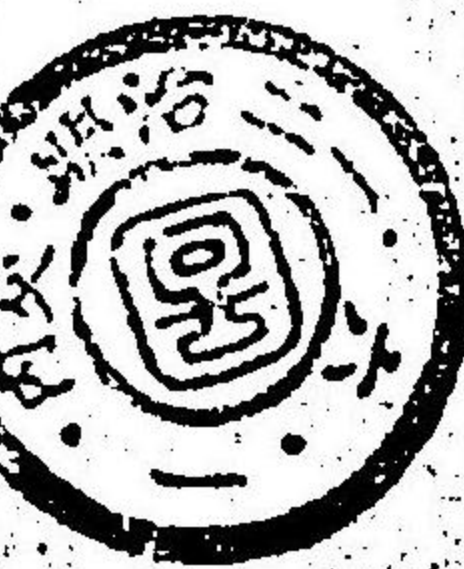
(四) 惠帝ノ昏愚

(一) 羊祜荊州ヲ都督ス

(二) 竹林ノ七賢

(三) 八王ノ亂

(四) 劉淵左國城ニ興ル



- (九) 巴氏ノ李氏蜀ニ據ル
- (十) 鮮卑ノ慕容拓跋二氏興ル
- (十一) 石勒洛陽ヲ陷ル
- (十二) 漢兵長安ヲ陷ル
- 東晋
- (一) 東晋ノ治亂興亡
- (二) 東晋元帝ノ中興
- (三) 劉琨死ス
- (四) 石勒趙王ト稱ス
- (五) 祖逖死ス
- (六) 拓跋猗盧三部ヲ總攝ス
- (七) 王敦ノ反
- (八) 王敦ノ平定
- (九) 陶侃ノ略傳
- (十) 蘇峻ノ反
- (十一) 前趙ノ亡
- (十二) 石勒ノ僭號
- (十三) 代ノ什翼犍祖業ヲ修ム
- (十四) 王導ノ略傳
- (十五) 庾翼襄陽ヲ鎮ス
- (十六) 殷浩ノ謫死
- (十七) 桓温秦ヲ伐ツ
- (十八) 桓温姚襄ヲ討ス

- (十九) 王猛ノ略傳
- (二十) 肥水ノ役
- (二十一) 謝安ノ略傳
- (二十二) 桓玄ノ反
- 南北朝
- (一) 南朝ノ治亂興亡
- (二) 北朝ノ治亂興亡
- (三) 陶潛ノ略傳
- (四) 謝靈運誅セラル
- (五) 北魏司徒崔浩ヲ殺ス
- (六) 王玄謨ノ敗軍
- (七) 高歡財ヲ散シテ客ヲ結フ
- (八) 侯景臺城ヲ陷ル
- (九) 長城煬公ノ奢侈
- (十) 隋兵陳ヲ伐ツ
- 隋
- (一) 隋ノ治亂興亡
- (二) 晋王廣文帝ヲ弑シ及故太子勇ヲ殺ス
- (三) 煬帝ノ奢侈
- (四) 煬帝高麗ヲ征ス
- (五) 楊玄感及ヒ李密兵ヲ起ス

唐

- (一) 唐ノ治亂興亡
- (二) 唐公李淵兵ヲ起ス
- (三) 均田租庸調ノ法ヲ定ム
- (四) 立武門ノ變
- (五) 登瀛ノ學士
- (六) 房玄齡杜如晦ヲ薦ム
- (七) 長孫皇后ノ賢
- (八) 突厥盟ヲ請フ
- (九) 弘文館ヲ置ク
- (十) 太宗治道ヲ論ス
- (十一) 裴矩ノ力爭
- (十二) 張玄素臣ヲ擇フヲ請フ
- (十三) 張蘊古大寶ノ箴ヲ獻ス
- (十四) 戴胄ノ執法
- (十五) 太宗中書門下ヲ論ス
- (十六) 魏徵忠良ノ辨
- (十七) 李靖突厥ヲ破ル
- (十八) 魏徵仁義ヲ行フヲ勸ム
- (十九) 太宗ノ二喜一懼
- (二十) 太宗死囚ヲ縱ツ
- (二十一) 太宗未央宮ニ置酒ス
- (二十二) 太宗蕭瑀ニ詩ヲ賜フ

- (二十三) 太宗權萬紀ヲ黜ク
- (二十四) 太宗府兵ヲ定ム
- (二十五) 太宗國子監ニ詣リ釋奠ス
- (二十六) 太宗太子承乾ヲ廢ス
- (二十七) 太宗親ヲ高麗ヲ征ス
- (二十八) 回紇歸降ス
- (二十九) 太宗創業守成ヲ論ス
- (三十) 王珪ノ略傳
- (三十一) 魏徵ノ略傳
- (三十二) 房玄齡ノ略傳
- (三十三) 杜如晦ノ略傳
- (三十四) 李勣左僕射ト爲ル
- (三十五) 高宗武昭儀ヲ立テ后ト爲ス
- (三十六) 武后王氏蕭氏ヲ殺ス
- (三十七) 李善感奉天宮ヲ作ルヲ諫ム
- (三十八) 李勣ノ略傳
- (三十九) 則天武氏自立シテ帝ト稱ス
- (四十) 中宗ノ復位
- (四十一) 狄仁傑ノ略傳
- (四十二) 章后ノ淫縱
- (四十三) 楊相如ノ上疏
- (四十四) 盧懷慎ノ伴食
- (四十五) 姚宋ノ相
- (四十六) 韓休ノ峭直

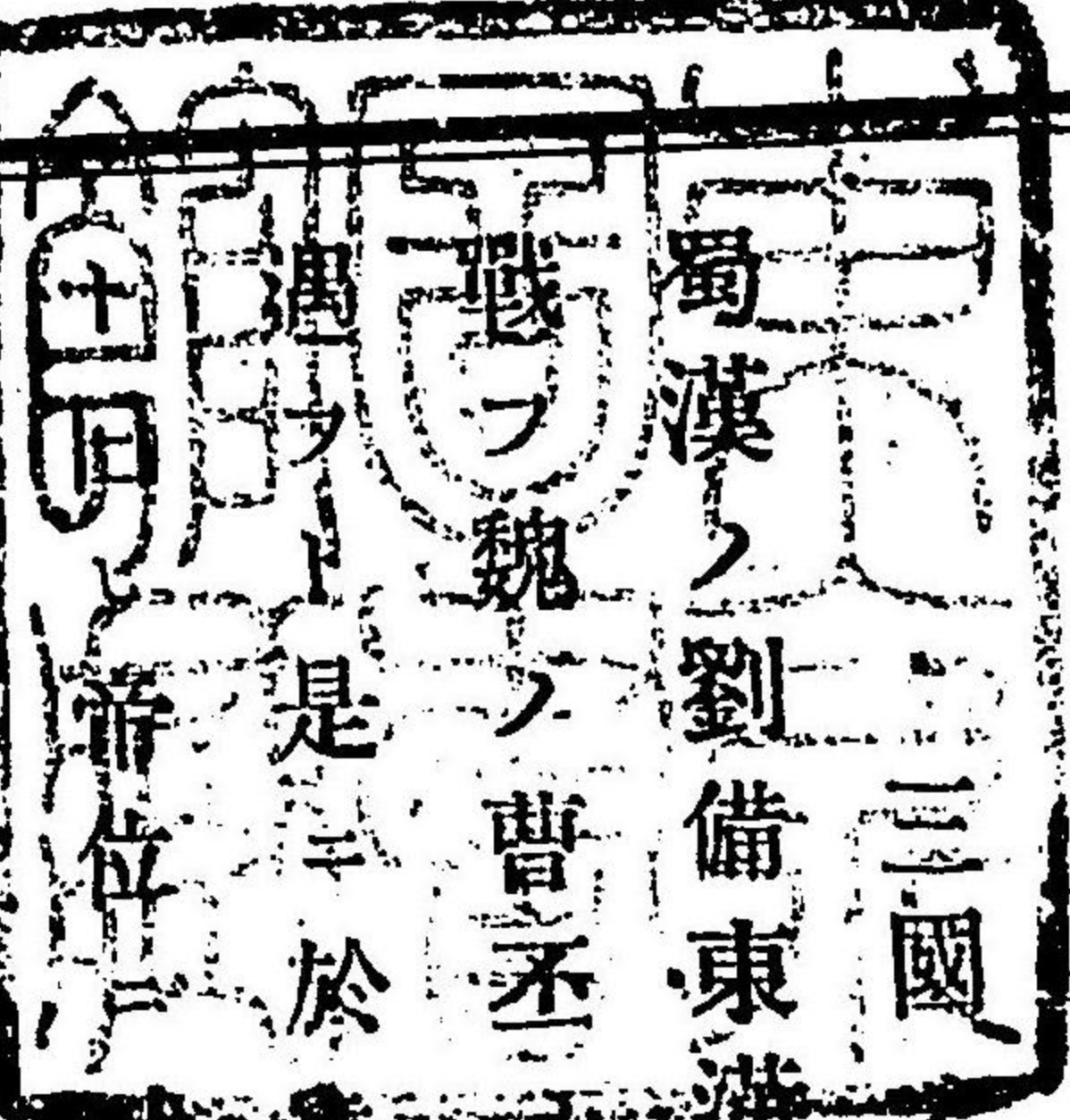
(四十七) 張九齡守珪ノ功ヲ論ス (四十八) 張守珪安祿山ヲ執ヘテ京師ニ送ル  
 (四十九) 安祿山楊貴妃ノ兒ト爲ル (五十) 貴妃祿兒ヲ洗フ  
 (五十一) 李林甫ノ柔佞 (五十二) 楊國忠ノ威福  
 (五十三) 安祿山ノ反 (五十四) 二顔賊ヲ討ス  
 (五十五) 肅宗靈武ニ即位ス (五十六) 李泌靈武ニ謁見ス  
 (五十七) 肅宗兩京ヲ復ス (五十八) 張巡許遠睢陽ヲ守ル  
 (五十九) 僕固懷恩ノ反 (六十) 魚朝恩誅セラル  
 (六十一) 楊綰ノ清儉 (六十二) 兩税法ヲ作ル  
 (六十三) 劉晏殺サル (六十四) 郭子儀ノ畧傳  
 (六十五) 朱泚ノ僭號 (六十六) 顏真卿ノ節義  
 (六十七) 吐蕃盟ヲ却ス (六十八) 盧杞ノ姦邪  
 (六十九) 陸贄及ヒ陽城貶セラル (七十) 沙陀朱邪盡忠來降ス

(七十一) 元和ノ賢相 (七十二) 魏博ノ田興奉貢ス  
 (七十四) 淮西ノ役 (七十五) 韓愈潮州ニ貶セラル  
 (七十六) 李德裕丹扈ノ六箴ヲ獻ス (七十七) 劉蕡ノ對策  
 (七十八) 文宗訓注ト宦官ヲ誅スルヲ謀ル (七十九) 柳公權諫議太夫ト爲ル  
 (八十) 裴度ノ畧傳 (八十一) 牛李ノ爭黨  
 (八十二) 澤潞平ク (八十三) 仇士良ノ官爵ヲ削ル  
 (八十四) 宣宗ノ明察 (八十五) 徐州ノ賊龐勛起ル  
 (八十六) 黃巢ノ僭號 (八十七) 李克用長安ヲ復ス  
 (八十八) 朱全忠克用ヲ襲フ (八十九) 鄭紫同平章事ト爲ル  
 (九十) 朱全忠悉ク宦官ヲ殺ス (九十一) 朱全忠ノ篡奪  
 (九十二) 朱全忠縉紳ヲ黃河ニ投ス (九十三) 司空圖ヲ放チ山ニ還ス

綱要支那歴史卷ノ三目錄畢

綱要支那歴史卷ノ三

若松 池田 錦堂 編輯



治亂興亡

蜀漢ノ劉備東漢孝獻常ノ時ヨリ兵ヲ起ノ數々群雄ト  
 戰フ魏ノ曹丕ヲ篡立スルヤ蜀中傳ヘ言フ帝旣ニ害ニ  
 遇ラト是ニ於テ備喪ヲ發シ服ヲ制シ諡シテ孝愍皇帝  
 元ス是レヲ昭烈皇帝トナス諸葛亮ヲ用ヒ以テ丞相ト  
 爲シ蜀漢ニ偏安シ吳魏ト鼎足ノ勢ヲ爲ス終ニ天下ヲ  
 統一スル能ハスシテ崩ス子禪立ツ是レヲ後皇帝トナ

ス諸葛亮遺詔ヲ受ケ内ハ國政ヲ輔ケ外ハ軍旅ヲ統フ  
亮ノ死スルニ及ヒ國勢漸ク衰フ炎興元年癸未ニ至リ  
魏ノ攻メ降ス所トナル西漢高帝元年乙未ヨリ是ニ至  
テ凡ソ二十六帝通シテ四百六十九年ニシテ漢亡フ繼  
テ興ルモノヲ西晋武帝ト爲ス  
魏ノ曹操東漢孝靈帝ノ時黃巾ノ賊ヲ討スルヲ以テ起  
リ呂布ヲ殺シ數々蜀吳ト戰フ子丕ニ至テ終ヒニ帝位  
ヲ篡ヒ首メテ九官人ヲ官ニスルノ法ヲ立テ人物ヲ區  
別ス魏大ニ治マル黃初ト改元ス僭位七年ニシテ殂ス  
是レヲ文皇帝ト爲ス子叡立ツ是レヲ明帝ト爲ス性土

木ヲ好ミ奢侈ヲ究極シ諫メヲ納レズ僭位十四年ニシ  
テ殂ス子芳立ツ是レヲ廢帝邵陵ノ厲公トナス司馬懿  
曹爽遺詔ヲ受ケテ政ヲ輔ク魏主終ニ懿ノ子師ノ廢ス  
ル所ト爲ル僭位十六年師高貴郷公ヲ迎ヘ立ツ是レヲ  
廢帝ト爲ス師ノ弟昭相國ト爲リ晋公ニ封セラル魏主  
威權日ニ去ルヲ見テ忿怒ニ勝ヘス昭ヲ誅セントス昭  
ノ黨廢シテ庶人ト爲ス僭位七年昭常道郷公ヲ迎ヘ立  
ツ是レヲ元皇帝ト爲ス僭位七年昭ノ子炎遂ニ魏ヲ篡  
ヒ天子ト爲ル即チ西晋武帝是レナリ魏曹丕ヨリ是  
ニ至テ凡ソ五世十六年ニシテ亡フ

吳ノ孫權其父堅東漢孝獻帝ノ兵ヲ起シテ董卓ヲ討  
ス堅死スルニ及ヒ子策代ツテ其衆ヲ領シ江東ニ據有  
ス幾ハクモナクシテ死ス權之レニ代ル權ハ策ノ弟ナ  
リ賢ニ任シ能ク使ヒ志經畧ヲ存ス民悅服ス數々蜀魏  
ト戰フ後自ラ皇帝ト稱シ建業ニ都ス是レヲ太皇帝ト  
ナス子亮立ツ大將軍孫繼亮ヲ廢シテ瑯琊王休ヲ迎ヘ  
立ツ是レヲ景皇帝トナス繼テ兄ノ子烏程侯皓立ツ德  
政ヲ修メス而シテ天下ヲ兼并セント欲ス數々晋ノ邊ヲ  
侵盜ス西晉太康元年ニ至リ終ヒ武帝ノ攻メ降ス所  
トナル吳大帝ヨリ是ニ至テ四世帝ト稱スルモノ凡ソ

五十二年ニシテ亡フ先キニ孫策江東ヲ定メテヨリ以  
來通シテ八十餘年ナリ

魏孫權ヲ封シ吳王ト爲ス

蜀漢昭烈帝關羽ノ吳ノ爲メニ殺サル、ヲ耻テ自ラ將  
トシ孫權ヲ伐ツ群臣諫ムレトモ聽カス權和ヲ求ムレ  
レ許サス權使ヲ魏ニ遣ハシ臣ト稱シ以テ降ル魏主權  
ヲ封シ吳王ト爲シ九錫ヲ賜フ吳中太夫趙咨ヲ遣リ魏  
ニ謝セシム魏主趙咨ニ問フテ曰ク吳王頗ル學ヲ知ル  
カ咨ノ曰ク吳王賢ニ任シ能ク使ヒ志經畧ヲ存ス餘閑  
アリテ博ク書史ヲ讀ムトイヘレ書生ノ章ヲ尋テ子句ヲ

摘ムニ效ハスト魏主ノ曰ク吳ハ魏ヲ難カルカ咨ノ曰ク帶甲百萬江漢ヲ池ト爲ス何ノ難カルトカ之レ有ラシ魏主ノ曰ク吳ニ太夫ノ如キモノ幾人有ルヤ咨ノ曰ク聰明特達ノモノ八九十人臣ノ如キハ車載斗量勝ケテ數フヘカラサルナリト

昭烈夷陵之敗

蜀漢章武二年昭烈帝巫峽建平ヨリ營ヲ連ラテ夷陵ノ界ニ至ルマテ數十屯ヲ立テ正月ヨリ吳ト相拒キ六月ニ至ルマテ決セス吳班ヲシテ數千人ヲ將ヒテ平地ニ於テ營ヲ立テシム吳ノ將帥之レヲ撃ント欲ス陸遜曰

ク此レ必ラス譎リアラン且ラク之レヲ觀ヨト帝計ノ行ハレサルヲ知り伏兵八千ヲ引キ谷中ヨリ出ツ遜曰ク諸君ノ之レヲ撃ツヲ聽カサルユヘンノモノハ此レヲ以テノ故ナリト遜將サニ進ミテ漢軍ヲ攻メントス諸將曰ク之レヲ攻メハ當サニ初メニ在ルヘシ今諸口要害皆已ニ固守セリ之レヲ撃ツモ必ス利ナケン遜曰ク彼レ事ヲ更ル多シ其軍初メテ集マル思慮精專未ダ干スヘカラサルナリ乃チ試ミニ先ツ一營ヲ攻ム利アラス遜曰ク吾已ニ之レヲ破フルノ術ヲ曉レリト乃チ勅シテ各々一把茅ヲ持シ火ヲ以テ攻メ之レヲ拔ケリ



遂ヒニ諸軍ヲ率ヒ同時俱ニ攻メ四十餘營ヲ破フル帝  
馬鞍山ニ上リ兵ヲ陳シ自ラ繞ル遜兵ヲ促シ四面ヨリ  
之レヲ蹙ム土崩瓦解死スルモノ萬數帝夜遁レ僅カニ  
白帝城ニ入ルヲ得タリ舟械軍資畧々盡ク帝大ヒニ慙  
恚シテ曰ク吾乃チ陸遜ノ爲メニ折辱セラル豈ニ天ニ  
アラスヤト

諸葛亮遺詔ヲ受ケ政ヲ輔ク

蜀漢昭烈帝終リニ臨ミ亮ニ謂テ曰ク君ノ才ハ曹丕ニ  
十倍セリ必ラス能ク國家ヲ安ンシ終ニ大事ヲ定メン  
嗣子輔ク可クンハ之レヲ輔ケヨ如シ其レ不可ナラハ

君自ラ取ル可シト亮涕泣シテ曰ク臣敢テ股肱ノ力ヲ  
竭クシテ忠貞ノ節ヲ效シ之ニ繼クニ死ヲ以テセサラ  
ンヤト亮乃チ官職ヲ約シ法制ヲ修メ教ヲ下シテ曰ク  
夫レ參署ハ衆思ヲ集メ忠益ヲ廣フスルユヘンナリ若  
シ小嫌ヲ遠ケ相ヒ違覆スルヲ難カラハ曠フシテ闕損  
セン違覆シテ中ヲ得レハ猶ホ傲躡ヲ棄テ珠玉ヲ獲ル  
如シト亮乃チ鄧芝ヲ遣ハシ吳ニ使シ好ミヲ修メシム  
芝吳王ニ見ヘテ曰ク蜀ニ重險ノ固メアリ吳ニ三江ノ  
阻アリ共ニ唇齒ヲ爲サハ進ンテハ天下ヲ兼并スヘク  
退ヒテハ鼎足シテ立ツ可シト吳遂ヒニ魏ヲ絶チ專ハ

ラ漢ト和セリ

諸葛亮南夷ヲ討ス

蜀漢昭烈帝ノ時益州郡ノ耆帥雍闓四郡ヲ以テ叛シ吳ニ附カンヲ求ム承相諸葛亮新タニ大喪ニ遭フヲ以テ撫シテ討セス農ヲ務メ穀ヲ殖シ門ヲ閉チ民ヲ息フ後皇帝建興三年亮衆ヲ率ヒ雍闓等ヲ討ス計ヲ參軍馬謖ニ問フ謖曰ク南中ハ其險遠ヲ恃ミ服セサル久シ今日之レヲ破フルモ明日復タ反ス夫レ兵ヲ用ユルノ道ハ心ヲ攻ムルヲ上ト爲ス城ヲ攻ムルヲ下ト爲ス心戰ハ上タリ兵戰ハ下タリ願クハ公其心ヲ服センノミト

前出師ノ表

亮之レヲ納ル亮南中ニ至ル所在戰ヒ勝ツ遂ニ雍闓等ヲ斬リ之ヲ平ク孟獲ナルモノアリ素ヨリ夷漢ノ爲メニ服セラル亮生ナカラ獲ヲ致ス營陣ヲ觀セシム縱シテ更ラニ戰ハシム七タヒ縱シ七タヒ禽ニス而シテ猶ホ獲ヲ遣ル獲去ラスシテ曰ク公ハ天威ナリト南人復タ反セス

諸葛亮魏ヲ伐ツ

蜀漢後皇帝建興五年丞相諸葛亮諸軍ヲ率ヒテ北ノ方魏ヲ伐ツ發スルニ臨ミ上疏シテ曰ク今天下三分ス益州疲弊セリ此レ危急存亡ノ秋ナリ宜シク聖聽ヲ開張

十二  
スヘシ宜シク忠諫ノ路ヲ塞クヘカラス宮中府中ハ俱  
ニ一體ト爲リ陟罰臧否宜シク異同スヘカラス若シ姦  
ヲ作シ科ヲ犯シ及ヒ忠善ノ者アラハ宜シク有司ニ付  
シテ其刑賞ヲ論シテ以テ平明ノ治ヲ昭カニスヘシ賢  
臣ヲ親ミ小人ヲ遠クハ此レ先漢ノ興隆スル所以ナリ  
小人ヲ親ミ賢臣ヲ遠クルハ此レ後漢ノ傾頽スルユヘ  
ンナリ臣本ト布衣ナリ躬カラ南陽ニ畊ス苟クモ性命  
ヲ亂世ニ全フシ聞達ヲ諸侯ニ求メス先帝臣カ卑鄙ナ  
ルヲ以テセス猥リニ自ラ枉屈シテ臣ヲ草廬ノ中ニ三  
顧ス臣ニ諮フニ當世ノ事ヲ以テス是ニ由テ感激シテ

先帝ニ許スニ驅馳ヲ以テス先帝臣カ謹慎ナルヲ知  
リ崩スルニ臨ミ寄スルニ大事ヲ以テス命ヲ受ケテヨ  
リ以來夙夜憂懼シ付託ノ效アラスシテ先帝ノ明ヲ傷  
ランコトヲ恐ル故ニ五月瀘ヲ渡リ深ク不毛ニ入ル今南  
方已ニ定マリ兵甲已ニ足ル當サニ三軍ヲ將率シテ北  
ノ方中原ヲ定ムヘシ漢室ヲ興復シテ舊都ニ還サント  
此レ臣カ先帝ニ報ヒ而テ陛下ニ忠スルユヘンノ職分  
ナリト遂ニ漢中ニ屯ス明年大軍ヲ率ヒテ祁山ヲ攻ム  
戎陣整齊ニシテ號令明肅ナリ始メ魏昭烈既ニ崩シテ  
數歲ニシテ寂然トシテ聞ユルコトナキヲ以テ豫シメ備

フル所ナシ猝カニ亮カ出ルト聞テ朝野恐懼ス是ニ於テ天水安定等ノ郡皆ヲ亮ニ應ス關中響震ス魏主長安ニ如ク張郃ヲシテ之レヲ拒カシム亮馬謖ヲ使ハシ諸軍ヲ督シ街亭ニ戰フ謖亮カ節度ニ違フ郃大ニ之レヲ破ル亮乃チ漢中ニ還ル已ニシテ復タ漢帝ニ言テ曰ク漢賊兩立セス王業ハ偏安セス臣鞠躬盡力シ死シテ後チニ已マン成敗利鈍ニ至テハ臣カ能ク逆シメ觀ル所口ニ非ルナリト兵ヲ引テ散關ヨリ出テ陳倉ヲ圍ミ克タス糧盡キテ引キ還ル九年亮又タ魏ヲ伐チ祁山ヲ圍ム魏司馬懿ヲシテ諸軍ヲ督シ亮ヲ拒カシム懿肯テ戰

ハス賈詡等曰ク公蜀ヲ畏ル、虎ノ如シ天下ノ笑ヲ如何セント懿乃チ張郃ヲシテ亮ニ向ハシム亮逆ヘ戰フ魏ノ兵大ニ敗ル亮糧ノ盡ルヲ以テ軍ヲ退ク郃之レヲ追フ亮ト戰フテ伏弩ニ中テ死ス亮還テ農ヲ勸メ武ヲ講ス木牛流馬ヲ作ル邸閣ヲ治メ民ヲ息ヘ士ヲ休ス三年ニシテ而テ後チ之レヲ用ユ衆十萬ヲ悉クシテ又タ斜谷口ヨリ魏ヲ伐ツ進テ渭南ニ軍ス魏ノ大將軍司馬懿兵ヲ引テ拒キ守ル亮前キニ數々出テ皆運糧繼カス己レカ志ヲ伸スヲ得サルヲ以テ乃チ兵ヲ分テ屯田ス耕ス者渭濱ノ居民ノ間ニ雜ハル百姓安堵ス軍私シナ

シ

諸葛亮死ス

蜀漢後皇帝建興十二年諸葛亮ノ魏ヲ伐ツヤ亮數々懿  
 ニ戰ヒヲ挑ム懿出テス乃チ遣ルニ巾幗婦人ノ服ヲ以  
 テス亮カ使者懿カ軍ニ至ル懿其寢食及ヒ事ノ煩簡ヲ  
 問フテ而シテ戎事ニ及ハス使者曰ク諸葛公夙ニ興キ  
 夜ニ寐ヌ罰二十以上ハ皆親カラ覽ル噉食スル所ハ數  
 升ニ至ラスト懿人ニ告ケテ曰ク食少ク事煩シ其レ能  
 ク久シカラシヤト亮病ヒ篤シ大星アリ赤クノ芒アリ  
 亮カ營中ニ墜ツ未タ幾ハクナラスシテ卒ス長史楊儀

軍ヲ整ヘテ還ル百姓奔テ懿ニ告ク懿之レヲ追フ姜維  
 儀ヲシテ旗ヲ反ヘシ鼓ヲ鳴ラシ懿ニ向ハントスル若  
 クセシム懿敢テ逼ラス百姓之レカ諺ヲ爲シテ曰ク死  
 セル諸葛生ケル仲達ヲ走ラシムト懿笑テ曰ク吾レ能  
 ク生ヲ料ル死ヲ料ル能ハスト亮嘗テ兵法ヲ推演シ八  
 陳ノ圖ヲ作ル是ニ至リ懿其營壘ヲ案行シ歎ソ曰ク天  
 下ノ奇材ナリト亮ノ政ヲ爲スヤ私ナシ將軍馬謖素ヨ  
 リ亮ノ爲メニ知ラル其敗軍ニ及フヤ亮流涕シテ之レ  
 ナ斬ル而シテ其後ヲ卹レム李平廖立皆ナ亮ノ爲メニ廢  
 セラル而シテ亮ノ死ヲ聞クニ及ンテハ皆歎息シテ涕

ナ流ス卒イニ病ヒヲ發シテ死スルニ至ル初メ亮帝ニ表シテ曰ク臣成都ニ桑八百株薄田十五頃アリ子弟ノ衣食自ラ餘リアリ別ニ生ヲ治メテ以テ尺寸ヲ長セス臣死スルノ日内ニ餘帛アリ外ニ贏財アリテ以テ陛下ニ貢ムカシメスト卒スルニ至リ果シテ其言ノ如シ忠武ト謚ス

司馬氏魏ヲ篡フ

蜀漢後皇帝延熙二年魏主叡死シ子芳立ツ司馬懿曹爽遺詔ヲ受ケテ政ヲ輔ク懿太傅タリ曹爽大將軍タリ曹爽驕奢ニシテ度ナシ懿之レヲ殺シ承相ト爲ル魏主之

レニ九錫ヲ加フレ正受ケス爽ノ黨夏侯霸蜀ニ奔ル姜維問フテ曰ク懿政ヲ得タリ復々征伐ノ志アルヤ否ヤ霸曰ク彼レ家門ヲ營立ス未タ外事ニ違アラスト十三年懿卒ス子師ヲ以テ撫軍大將軍トナシ尙書ノ事ヲ録セシム李豐ナルモノ數々魏主ノ爲メニ召サル師其ノ己レヲ議スルヲ知リテ之レヲ殺ス魏主不平ナリ左右師ヲ誅スルヲ勸ム魏主敢テ發セス師魏主ヲ廢シ高貴卿公ヲ迎ヘ立ツ楊州ノ都督母丘儉等兵ヲ起シテ師ヲ討ス師撃テ之レヲ敗ル師卒シテ弟昭大將軍トナル已ニシテ相國トナリ晋公ニ封セラル九錫ヲ加フ受ケス

魏主威權ノ日ニ去ルヲ見テ其忿リニ勝ヘス曰ク司馬  
昭ノ心ハ路人モ知ル所ナリト殿中宿衛ノ兵ヲ卒ヒテ  
鼓譟シテ出テ昭ヲ誅セントス昭ノ黨賈充入テ魏主ト  
戰フ成齊ナルモノ戈ヲ抽ヒテ魏主ヲ刺ス車下ニ殞ツ  
昭廢シテ庶人ト爲シ常道郷公ヲ迎立ス昭爵ヲ進メ晋  
王ト爲リ卒ス子炎嗣ク遂ニ魏主ニ迫リテ位ヲ禪ラシ  
メ而シテ魏主ヲ封シテ陣留王ト爲ス

孫綝ノ廢立

蜀漢後皇帝建興二十年吳主亮政ヲ親ラス數々中書ニ  
出テ太帝ノ時ノ舊事ヲ視ル嘗テ生梅ヲ食ハントシ黃

門ヲシテ中藏ニ至リ蜜ヲ取ラシム蜜中ニ鼠矢アリ藏  
吏ヲ召シ問フテ曰ク黃門爾チニ從フテ蜜ヲ求ムルカ  
吏曰ク向キニ求ムシ能ク敢ヘテ與ヘスト黃門服セス亮  
鼠矢ヲ破ラシム矢中燥ケリ因テ大ニ笑テ曰ク若シ矢  
先キヨリ蜜中ニ在ラハ中外俱ニ濕ハン今外濕フテ内  
燥ク必ラス黃門ノ所爲ナラント之レヲ詰レハ果シテ  
服ス左右皆ナ驚慄ス太將軍孫綝其ノ難問スル所多キ  
ヲ以テ疾ト稱シ朝セス兵ヲ以テ宮ヲ圍ミ亮ヲ廢シテ  
會稽王ト爲シ鄒瑯王休ヲ迎ヘ立ツ休立チ綝ヲ以テ承  
相ト爲ス綝又休ニ無禮ナリ遂ニ誅セララル

魏漢ヲ滅ス

漢ノ姜維屢々魏ヲ伐ツ魏將司馬昭之ヲ患ヒ鄧艾鍾會  
 ナソ兵ニ將トソ漢ヲ撃タシム會ハ斜谷駱谷子午谷ヨ  
 リ漢中ニ趨ク艾ハ狄道ヨリ甘松沓中ニ趨ク以テ姜維  
 ナ綴ス維會カ已ニ漢中ニ入ルト聞キ兵ヲ引テ沓中ヨ  
 リ還ル艾之レヲ追躡シテ大ニ戰フ維敗走ス還テ劔閣  
 ナ守リ以テ會ヲ拒ク艾進ンテ陰平ニ至ル無人ノ地ヲ  
 行クフ七百里山ヲ鑿チ道ヲ通シ橋閣ヲ作ル山高ク谷  
 深シ艾氈ヲ以テ自ラ裹ミ推轉シテ下ル將士皆木ヲ攀  
 チ崖ニ緣リ魚貫シテ進ム江油ニ至ル書ヲ以テ漢ノ將

諸葛瞻ヲ誘フ瞻其使ヲ斬リ綿竹ニ陣シテ待ツ軍大ニ  
 敗レ瞻之レニ死ス瞻ノ子尙日ク父子國ノ重恩ヲ荷フ  
 早ク黃皓ヲ斬ラスシテ國ヲ敗リ民ヲ殄セシム用テ生  
 臣何ヲカ爲サント陣ヲ冒シテ死ス漢人ノ不意ニ魏兵  
 卒カニ至ル城守ヲ爲サス乃チ使ヲ遣ハシテ璽綬ヲ奉  
 シ艾ニ詣テ降ル皇子北地王諶怒テ日ク若シ理窮リ力  
 屈シ禍敗將サニ及ハントセハ便チ父子君臣城ヲ背ニ  
 シ一戰シ同シク社稷ニ死シ以テ先帝ニ地下ニ見ヘテ  
 可ナルヘシ如何ソ降セシヤト帝聽カス諶昭烈ノ廟ニ  
 哭シ先ツ妻子ヲ殺シ而シテ後チ自殺ス艾成都ニ至ル



帝出テ、降ル魏封シテ安樂公ト爲ス而シテ漢亡フ

西晋ノ治亂興亡

西晋世祖武皇帝魏ニ代テ十有六年太康元年ニ至テ吳  
ヲ滅ス帝初メ位ニ即キ嘗テ雉頭裘ヲ焚キ以テ儉ヲ示  
メス既ニシテ侈縱ナリ吳已ニ平ラキテヨリ天下無事  
ナリト謂ヒ盡ク州郡ノ武備ヲ去ル漢魏以來羌胡鮮卑  
ノ降ル者多ク塞内ノ諸郡ニ處ル侍御史郭欽嘗テ上疏  
シテ宜シク四夷出入ノ防ヲ峻ニスヘシト言フ帝聽カ  
ス卒ニ天下ノ患ヲ爲ス孝惠帝立テ昏愚ナリ皇后賈氏  
政ニ預カル后凶險ト雖モ猶ホ張華裴頴等ノ諸賢ヲ敬

重シ心ヲ同フシテ政ヲ輔ケシム故ニ數年ノ間暗主上  
ニ在リト雖モ朝野安靜ナリ後チ后淫虐日ニ甚シ趙王  
倫詔ヲ矯メテ之ヲ殺シ自ラ皇帝ト稱シ帝ヲ金墉城ニ  
遷ス是レヨリ諸王迭ヒニ相殘滅シ天下大ニ亂ル是レ  
ナハ王ノ亂ト云フ既ニシテ匈奴劉淵左國城ニ起リ巴  
氏ノ李特兄弟蜀ニ據リ鮮卑慕容及ヒ拓拔二氏ノ部愈  
々盛ン而シテ羯人石勒羌酋姚氏相繼テ起ル夷狄華ヲ  
亂ルノ禍皆ナ漢魏晋ノ間ニ萌蘖ス帝ノ世ニ至テ中國  
ノ大亂ニ乘シ益々猖獗ナリ是レヲ五胡ノ亂ト云フ孝  
懷孝愍ノ二帝皆ナ匈奴劉曜ノ殺ス所ト爲ル西晋終ニ

亡フ西晋武帝ヨリ是ニ至テ凡ソ四世五十二年瑯琊王  
睿建業ニ立ツ是レヲ東晋中宗元皇帝ト爲ス

羊祜荆州ヲ都督ス

西晋世祖武皇帝既ニ帝位ニ即キ吳ヲ滅スルノ志アリ  
羊祜ヲ以テ荆州ノ事ヲ都督セシム吳陸抗ヲ以テ諸軍  
ヲ都督セシム祜ト抗ト境ヲ對シ使命常ニ通ス抗祜ニ  
酒ヲ遣クル祜之レヲ飲ミ疑ハス抗疾ム祜之レニ成藥  
ヲ與フ抗即チ之レヲ服シテ曰ク豈ニ人ヲ酖スル羊叔  
子アラシヤト祜務メテ德政ヲ修メ以テ吳人ヲ懷ク兵  
ヲ交ユル毎ニ日ヲ刻シテ方ニ戰ヒ掩襲ヲ爲サス抗モ

亦タ其邊戍ニ告ケテ曰ク彼レ專ハラ德ヲ爲ス我レ專  
ハラ暴ヲ爲ス是レ戰ハスシテ自ラ服スナリ各分界ヲ  
保スルノミ細利ヲ求ムルト母レト

杜預吳ヲ滅ス

吳主皓德政ヲ修メス而シテ專ハラ兼並ノ計ヲ爲ス數  
々晋ノ邊ヲ侵盜ス大司馬陸抗諫ムレト聽カス抗卒ス  
晋ノ羊祜吳ヲ伐ント請フ議者多ク同フセス祜歎ソ曰  
ク天下意ノ如クナラサル事十二常ニ七八ト惟杜預張  
華其計ヲ贊ク祜病ム朝ニ入テ面アタリ陳ントヲ求ム  
武帝祜ヲシテ臥ナカラ諸將ヲ護セシメント欲ス祜カ

日ク吳ヲ取ルコトハ臣カ行ヲ必トセス但吳ヲ平クルノ  
 後チ當サニ聖慮ヲ勞ス可キノミト祐卒ス杜預ヲ擧ケ  
 テ自ラ代フ時ニ吳主皓淫虐日ニ甚タシ預表シテ速カ  
 ニ之レヲ征セント請フ表至ル張華適マ帝ト基ス即チ  
 秤ヲ推シ手ヲ歛メテ其決ヲ贊ク帝之レヲ許ルス太康  
 元年晋大擧シテ吳ヲ伐ツ杜預江陵ヨリ出テ王濬巴蜀  
 ヨリ下ル吳人江碛要害ノ處ニ於テ並ヒニ鐵鎖ヲ以テ  
 江ニ横ヘテ之レヲ截ツ又鐵錐ノ長サ丈餘ナルヲ作り  
 暗ニ江中ニ置テ舟艦ヲ逆ヘ拒ム濬大筏ヲ作テ水ニ善  
 キ者ヲシテ筏ヲ以テ先行セシム錐ニ遇ヘハ輒チ筏ヲ

著ケテ而メ去ル又大炬ヲ作テ灌クニ麻油ヲ以テス鎖  
 ニ遇ヘハ之レヲ燒ク須臾ニ融液シテ斷絶ス是ニ於テ  
 船礙ル所ナシ遂ニ先ツ上流ノ諸郡ニ克ツ預人ナシテ  
 奇兵ヲ率ヒテ夜ル渡ル吳ノ將懼レテ曰ク北來ノ諸軍  
 乃チ江ヲ飛ヒ渡ルナリト預兵ヲ分チ濬ト合テ武昌ヲ  
 攻メテ之レヲ降ス預カ謂ハク兵威已ニ振フ譬ヘハ竹  
 チ破ルカ如シ數節ノ後ハ又チ迎ヘテ解ク復タ手ヲ著  
 ル處ナシト遂ニ郡帥ニ方略ヲ指授シ徑チニ建業ニ造  
 ル濬カ戎卒八萬舟ヲ方フルコト百里帆ヲ擧ケテ直チニ  
 建業ニ指ス鼓譟シテ石頭城ニ入ル吳主皓面縛輿櫬シ

テ降ル歸命侯ニ封ス朝廷吳已ニ平ラクルヲ聞キ羣臣  
皆ヲ賀シテ壽ヲ上ル帝爵ヲ執リ流涕シテ曰ク此レ羊  
太夫ノ功ナリト

竹林ノ七賢

西晋武帝ノ時山濤嵇康阮籍藉カ兄ノ子咸向秀王戎  
劉伶七人相友タリ竹林ノ七賢ト號ス皆ヲ老莊虛無ノ  
學ヲ崇尚シ禮法ヲ輕蔑ス縱酒昏酣シテ世事ヲ遺落ス  
士太夫皆ナ之レヲ慕效ス之レヲ放達ト謂フ惟リ濤意  
ヲ世事ニ留ム嘗テ選ヲ典トル人物ヲ甄拔シ各々題目  
ヲ爲リ而シテ之レヲ奏ス時人之レヲ稱シテ山公カ啓

事ト爲ス晋吳ヲ伐ツニ及ヒ濤時ニ吏部尙書ト爲ル人  
ニ告ケテ曰ク聖人ニ非サルヨリハ外寧ケレハ必ラス  
内憂アリ吳ヲ釋シテ外懼ト爲ルト豈ニ算ニ非ラスヤ  
ト吳已ニ平ラキ武帝盡ク州郡ノ武備ヲ去ルヤ濤亦タ  
獨リ之レヲ憂フト云フ王戎時ト浮沈ス匡救スル所ナ  
シ性復タ貪吝ナリ田園天下ニ遍チシ牙籌ヲ執テ晝夜  
會計ス家ニ好李アリ人其種ヲ得ンコトヲ恐レテ常ニ其  
核ヲ鑽ル凡ソ賞拔スル所專ハラ虚名ヲ事トス阮咸ノ  
子瞻戎ニ見ユ戎問テ曰ク聖人ハ名教ヲ貴フ老莊ハ自  
然ヲ明カニス其旨異ナルカ同シキカ瞻カ曰ク將タ同

シキヲ無カンヤト戎咨嗟スルヲ良ヤ久シ遂ニ之レヲ  
 辟ス時ニ三語ノ掾ト號ス是ノ時王衍樂廣皆ナ清談ニ  
 善シ而シテ衍神情明秀ナリ少キ時山濤之レヲ見テ曰  
 ク何物ノ老嫗カ寧馨兒ヲ生ム然レモ天下ノ蒼生ヲ誤  
 ラン者ハ未タ必ラスシモ此人ニアラスンハアラサル  
 ナリト後果シテ皆其言ノ如シ衍カ弟澄及ヒ阮咸咸カ  
 從子脩胡母輔之謝鯤畢卓等皆ナ任放ヲ以テ達ト爲ス  
 醉裸シテ以テ非ト爲サス比舍ノ郎釀熟ス卓夜甕間ニ  
 至テ盜ミ飲ム守者ノ爲メニ縛セラル旦タニ之レヲ視  
 レハ畢吏部ナリ樂廣聞テ之レヲ笑フテ曰ク名教中自

ラ樂地アリ何ソ必スシモ乃チ然ランヤト初メ魏ノ時  
 何晏等論ヲ立ツ以ヘラク天地萬物皆無ヲ以テ本ト爲  
 ス衍等之レヲ愛重ス裴頠崇有論ヲ著ス而モ救フヲ能  
 ハス

賈后ノ凶險

賈后ハ賈充ノ女ナリ權詐多シ西晋孝惠帝太子タル時  
 納レテ妃ト爲ス衛瓘ナルモノアリ嘗テ武帝ニ侍シ陽  
 醉シテ前ニ跪キ手ヲ以テ牀ヲ撫シテ曰ク此座惜ムヘ  
 シト武帝之レヲ悟リ尙書ノ疑事ヲ密封シテ太子ヲシ  
 テ之レヲ決セシム賈氏大ヒニ懼レ外人ヲ倩フテ代リ

テ草ヲ具セシメ太子ヲシテ自ラ寫サシメ之レヲ進ム  
武帝見テ大ヒニ悦ビ因テ廢セラレサルヲ得タリ惠帝  
位ニ即クニ及ヒ賈氏皇后ト爲リ政ニ預ル是ニ於テ太  
傅楊駿ヲ殺シ揚太后ヲ廢シ太宰汝南王亮ヲ殺シ太保  
衛瓘ヲ殺シ又楚王瑋ヲ殺ス遂ニ太子遼ヲ廢シ之レヲ  
殺ス時ニ征西大將軍趙王倫ナルモノ詔ヲ矯メテ兵ヲ  
勒シ后ヲ廢シテ之レヲ殺ス

八王ノ亂

西晋ノ孝惠帝永康元年征西大將軍趙王倫詔ヲ矯メテ  
兵ヲ勒シ宮ニ入り賈后ヲ廢シテ之レヲ殺ス張華裴頴

ヲ殺シ倫相國ト爲ル淮南王允兵ヲ率テ倫ヲ討ス克タ  
スシテ死ス倫衛尉石崇ヲ殺ス崇愛妾綠珠アリ倫カ嬖  
人孫秀之レヲ求ム與ヘス秀崇ヲ誣ユ允ヲ奉シテ亂ヲ  
爲スト之レヲ收フ崇カ曰ク奴輩吾カ財ヲ利スルノミ  
ト收フル者ノ曰ク財ノ禍ヒタルヲ知ラハ何ゾ早ク  
之レヲ散セサルト遂ニ殺サル倫自ラ九錫ヲ加ヘテ帝  
ニ逼テ位ヲ禪ラシム黨與皆ヲ卿相ト爲ル奴卒モ亦々  
爵位ヲ加フ朝會スル毎ニ貂蟬坐ニ盈ツ時ノ人語ツテ  
曰ク貂足ラス狗尾續クト齊王問許昌ヲ鎮ス成都王穎  
鄴ヲ鎮ス河間王顒關中ヲ鎮ス各兵ヲ擧ケテ倫ヲ討ス

倫誅ニ伏ス問政ヲ輔ク驕奢ニシテ權ヲ擅ニス頤長沙  
 王父ヲシテ之レヲ殺サシム頤モ亦タ功ヲ恃ンテ驕奢  
 ナリ已ニシテ頤ト兵ヲ擧ケテ反ス父帝ヲ奉シテ頤ト  
 戰フ頤カ將陸機戰ヒ敗レテ收ヘラル歎シテ曰ク華亭  
 ノ鶴唳復タ聞ク可ケンヤト弟雲ト皆ナ頤カ爲メニ殺  
 サル機雲ハ皆ナ陸抗カ子ナリ頤兵ヲ進メテ京師ニ入  
 ル丞相ト爲ル已ニシテ鄴ニ還ル頤頤ヲ表シテ皇太弟  
 ト爲ス東海王越帝ノ命ヲ奉シテ頤ヲ征ス頤兵ヲ遣ハ  
 シ蕩陰ニ拒戰ス乘輿敗績ス侍中嵇紹身ヲ以テ帝ヲ衛  
 リ殺サル血帝ノ衣ニ濺ク頤帝ヲ迎ヘテ鄴ニ入ル左右

帝ノ衣ヲ浣ハント欲ス帝曰ク嵇侍中ノ血浣フコトナカ  
 レト頤帝ヲ奉シテ洛ニ還ル頤カ將張方洛ニ在リ帝ヲ  
 長安ニ遷ス頤太弟頤ヲ廢シ豫章王熾ヲ更メ立テ、太  
 弟ト爲ス東海王越兵ヲ發シ西ノ方長安ニ入ル帝ヲ奉  
 シテ洛ニ還ル越ヲ以テ政ヲ輔ケシム成都王頤先キニ  
 洛陽ニ據ル已ニシテ長安ニ奔ル又タ武關ヨリ新野ニ  
 奔ル遂ニ北ノ方河ヲ濟ル故ノ將士ヲ收ム頓丘ノ太守  
 カ爲メニ執ヘラル時ニ范陽王虓鄴ニ據ル頤ヲ虓ニ送  
 ル未タ幾ハクナラス殺サル

惠帝ノ昏愚

西晋孝惠帝嘗テ華林園ニ在リ蛙鳴ヲ聞キ左右ニ謂ツ  
 テ曰ク彼ノ鳴クモノハ官ノ爲メニスルカ私ノ爲メニ  
 スルカト左右之レニ戯レテ曰ク官地ニアルモノハ官  
 ノ爲メニシ私地ニ在ルモノハ私ノ爲メニスト時ニ天  
 下荒饉百姓餓死スルモノアリ帝之ヲ聞キ曰ク何ソ肉  
 糜ヲ食ハサルト是ニ由リ權羣下ニ在リ政多門ニ出テ  
 賈氏政ヲ專ハラニス時人其將ニ亂レントスルヲ知ル  
 索靖ナルモノアリ洛陽宮門ノ銅駝ヲ指シ歎シテ曰ク  
 必ラス汝カ荆棘ノ中ニ在ルヲ見ンノミト

劉淵左國城ニ興ル

西晋孝惠帝永興元年劉淵左國城ニ興ル淵ハ故ノ南匈  
 奴ノ後チナリ漢魏以來中國ニ臣タリ其ノ先世漢ノ甥  
 ナルヲ以テ漢姓ヲ冒カス淵幼ニシテ雋異博ク經史ヲ  
 習フ嘗テ曰ク吾レ隨陸カ武ナクシテ高帝ニ遇テ封侯  
 ナ得ル能ハス絳灌カ文ナクシテ文帝ニ遇フテ庠序ノ  
 教ヲ起ス能ハサルヲ耻ツ豈ニ惜マサランヤト是ニ於  
 テ武事ヲ兼テ學フ姿貌魁偉ナリ初メ侍子トナリ洛ニ  
 在リ父豹死ス武帝淵ヲ以テ五部ノ帥ト爲ス旣ニシテ  
 北部ノ都尉ト爲ル五部ノ豪傑多ク之レニ歸ス孝惠帝  
 ノ世ニ及ンテ五部ノ大都督トナル成都王穎表シテ左



賢王ト爲ス淵カ子聰亦タ驍勇人ニ絶ス博ク經史ニ涉  
 ル善ク文ヲ屬ス弓ノ三百斤ナルヲ彎ク淵カ從祖宣カ  
 日ク漢亡ヒテ以來我カ單于徒ラニ虚號アリテ復タ尺  
 寸ノ土ナシ今吾カ衆衰ヘタリトイヘ臣猶ホ二萬アリ  
 奈何ソ手ヲ歛メ役ヲ受ケ奄トシテ百年ヲ過サンヤ天  
 下鼎ノ沸クカ如シ左賢王英武世ニ超ヘタリ呼韓邪ノ  
 業ヲ復スル今其時ナリト乃チ相共ニ謀テ之レヲ推戴  
 ス淵頴ニ説ク請フ歸リ五部ヲ帥ヒテ來リ助ケント旣  
 ニ左國城ニ至ル宣等推シテ大單于ト爲ス二旬ノ間衆  
 五萬離石ニ都ス胡晋之レニ歸スルモノ愈々衆シ乃チ

國號ヲ建テ漢ト曰フ漢王ト稱ス淵族子曜アリ生レテ  
 眉白シ目ニ赤光アリ幼ニシテ聰慧ナリ膽量アリ亦タ  
 好ンテ書ヲ讀ミ文ヲ屬ス射ハ能ク鐵ヲ洞ス一七寸是  
 ニ至テ淵ノ將タリ

巴氏ノ李氏蜀ニ據ル

西晋孝惠帝永興元年巴西ノ氏李雄自ラ成都王ト稱ス  
 雄ノ父特初メ流民ヲ以テ蜀ニ入ル旬月ニ衆二萬廣漢  
 ニ據ル進ンテ成都ヲ攻ム刺史羅尙カ爲メニ敗ラル其  
 首ヲ斬ル弟流代テ其衆ヲ領ス勢復タ盛ンナリ流死ス  
 弟雄代ル攻メテ羅尙ヲ走ラシム成都ニ入ル是ニ至テ

自ラ王ト稱ス

鮮卑ノ慕容拓跋二氏興ル

鮮卑ノ慕容廆西晋武帝ノ時ヨリ已ニ中國ニ寇ス既ニシテ降ル以テ鮮卑ノ都督ト爲ス廆皝ヲ生ム遼東ヨリ徙テ徒河ニ居ル又タ大棘城ニ徙ル帝ノ世ニ及ンテ慕容カ部愈々盛ンナリ鮮卑索頭拓跋氏是レヨリ先キ質子有ツテ晋ニ在リ武帝遣歸ス既ニシテ拓跋力微又タ其子ヲシテ入貢セシム力微死ス子悉祿官立ツ帝ノ世ニ及ンテ索頭國ヲ分ツテ三部ト爲ス一ハ上谷ノ北ニ居ル祿官自ラ之レヲ統フ一ハ代郡參合陂ノ北ニ居ル

兄ノ子猗叡ヲシテ之レヲ統ヘシム一ハ定襄ノ盛樂ノ故城ニ居ル猗叡カ弟猗盧ヲシテ之レヲ統ヘシム晋人附ク者稍ヤ衆シ猗叡漢ヲ渡テ北ニ巡リ西ノ方諸國ヲ畧ス降附スルモノ三十餘國拓跋氏ノ盛ナルヲ此ニ始マル

石勒洛陽ヲ陷ル

石勒ハ武鄉ノ羯人ナリ是ヨリ先キ嘗テ洛陽ニ至リ上東門ニ倚リ長嘯ス王衍ナルモノアリ其ノ異アルヲ識レリ已ニシテ漢ニ從フ西晋ノ孝懷帝永嘉元年漢主劉淵其子聰及ヒ石勒等ヲ遣ハシ晋ノ内部ヲ攻メ以テ洛

陽ニ至ル晋ノ太傅東海王越自ラ兵ヲ帥ヒテ石勒ヲ討  
 シ軍ニ卒ス勒ノ兵越ノ軍ヲ敗リ太尉王衍等ヲ執フ勒  
 問フニ管ノ故ヲ以テス衍具サニ禍敗ノ由ル所ヲ陳フ  
 云ヘラク計コト已レニ在ラスト且ツ言フ少キヨリ宦  
 情ナシ世事ニ豫ラスト因テ勒ニ尊號ヲ稱スルヲ勸メ  
 以テ自ラ免ル、ヲ冀フ勒ノ曰ク君少壯ヨリ朝ニ登リ  
 身重任ニ居ル何ソ宦情ナシト言フヲ得ンヤ勒孔萇ニ  
 謂ツテ曰ク吾レ天下ヲ行クル多シ未タ嘗テ此ノ輩ノ  
 人ヲ見ス尙ホ存スヘキカト萇曰ク彼レハ皆ナ晋ノ王  
 公終ニ吾カ用ヲ爲サスト勒曰ク然リトイヘニ加フル

ニ鋒刃ヲ以テスヘカラスト夜人ナシテ牆ヲ排シ之レ  
 ナ殺サシメ其尸ヲ燒キテ曰ク天下ヲ亂スモノハ此ノ  
 人ナリ吾レ天下ノ爲メニ之ヲ報スト五年漢主聰呼延  
 晏ヲ遣ハシ兵ニ將トシテ洛陽ヲ攻ム劉曜王彌石勒皆  
 會ス遂ニ洛陽ヲ陷ル帝ヲ執ヘテ平陽ニ送ル尋イテ之  
 ナ殺ス

漢兵長安ヲ陷ル

西晋孝愍帝ノ時漢數々長安ニ寇ス麴允索綝屢々之レ  
 ナ敗ル未タ幾ハクナラスシテ漢兵連リニ諸郡ヲ陷レ  
 長安ニ逼ル先ツ外城ヲ陷ル麴允索綝退テ小城ヲ守ル

内外斷絶シ城中饑甚タシ帝遂ニ出テ降ル漢ノ將劉曜  
平陽ニ送ル漢主群臣ヲ享ス帝ニ命シ青衣ヲ著ケ酒ヲ  
行ヒ爵ヲ洗ハシム又々蓋ヲ執ラシム後チ其ノ害スル  
所トナル

東晋ノ治亂興亡

東晋中宗元皇帝晋ノ宗室ノ疏屬ヲ以テ繼テ天子ト爲  
ル時ニ晋室既ニ衰ヘ夷狄中國ヲ擾亂ス帝微弱ニシテ  
明斷足ラス王導祖逖ノ賢臣アリト雖也之レヲ如何ト  
モスル能ハス大業未タ復セス禍亂内ニ興リ晋ノ祀絶  
ヘサルト幾ント綫ノ如シ明帝英武ノ才ヲ以テ位ヲ嗣

キ逆臣王敦ヲ誅翦シ王導温嶠陶侃等忠義ノ臣アリ大  
業復スルニ庶幾シ不幸ニシテ位ニ在ルト久シカラス  
成帝立テ歷陽ノ蘇峻反ヲ爲ス陶侃温嶠討テ之レヲ平  
ク後趙ノ石勒始メテ帝ト稱ス康帝ヲ歷テ穆帝ニ至リ  
趙王石虎及ヒ趙ノ蒲洪帝ト稱ス秦ノ符堅自立シテ秦  
天王ト爲ル哀帝ヲ歷テ帝奕ニ至リ大司馬桓温竊カニ  
不臣ノ志ヲ畜ヘ遂ニ帝ヲ廢シテ簡文帝ヲ迎ヘ立ツ文  
帝位ニ在ルト久シカラス武帝ニ至リ秦ノ符堅數々兵  
ヲ擧ケテ來寇シ諸郡ヲ陷ル是レヨリ中原大ヒニ亂レ  
夷狄ノ勢ヒ愈々盛シ其大ナルモノハ慕容氏姚氏迭ヒ

ニ大號ヲ擧ク其時ニ乘シテ起ルモノ秦ノ故臣呂光ノ如キハ涼州ニ據テ涼天王ト稱ス鮮卑乞伏國仁ハ隴右ニ據テ西秦王ト稱ス後チ又々鮮卑秃髮烏孤河西ニ起ル晋秦ヲ肥水ニ敗リシヨリ以後江左無事會稽王道子政ヲ爲シ帝酒ヲ嗜ミ流連スルノミ遂ニ張貴人ノ弑スル所ト爲ル安帝立テ不慧ナリ桓玄反シテ帝ニ迫リ位ヲ讓ラシム劉裕兵ヲ起シテ之レヲ討シ尋ヒテ帝ヲ弑ス恭帝立テ位ヲ裕ニ讓ル既ニシテ其弑スル所ト爲ル東晋元帝ヨリ是ニ至テ凡ソ十一世一百四年ニシテ亡フ西晋ヲ合セテ通シテ一百五十六年

東晋元帝ノ中興

元帝名ハ睿瑯琊王怵ノ孫ナリ宣帝懿怵ヲ生ム怵觀ヲ生ム或ハ曰ク睿ノ母瑯琊ノ小吏牛金ト通シテ睿ヲ生ムト睿觀ニ嗣テ瑯琊王タリ惠帝懷帝ニ於テハ再從兄弟タリ懷帝ノ時睿安東將軍トナリ揚州諸軍ニ都督タリ建業ヲ鎮ス睿王導ヲ以テ謀主トナシ事毎ニ咨詢ス睿名論素ヨリ輕シ建業ノ民初メハ附カズ王導勸メテ諸口名勝ノ士ヲ用ユ顧榮賀循紀瞻等掾屬ト爲リ新舊ヲ撫綏ス江東心ヲ歸ス後又々庾亮卞壺等百餘人ヲ得タリ之レヲ百六掾ト謂フ桓彝亂ヲ避ケテ江ヲ過ク睿

微弱ナルヲ見テ之レヲ憂フ王導ヲ見ルニ及ヒ退ヒ  
テ周顛ニ謂テ曰ク江左ニ管夷吾アリ吾レ憂ナシト時  
三愍帝嘗テ以テ左丞相トナス洛陽ノ祖逖少キヨリ大  
志アリ嘗テ劉琨ト同ク寢ヌ中夜鷄鳴ヲ聞キ琨ヲ蹴テ  
起ツテ曰ク此レ惡聲ニ非ルナリ因テ起テ舞フ南ニ渡  
ルニ及ヒ兵ヲ嘗ニ請フ嘗素ヨリ北伐ノ志ナシ逖ヲ以  
テ豫州ノ刺史ト爲シ兵千人ヲ與ヘ鎧仗ヲ給セス逖江  
ヲ渡リ中流ニ至リ楫ヲ擊テ誓テ曰ク祖逖中原ヲ清ム  
ル能ハスシテ而テ復タ濟ルアラハ此ノ江ノ如クアラ  
ント愍帝又々嘗テ以テ丞相トナシテ中外諸軍事ヲ都

督セシム長安陥ルニ及ヒ嘗師ヲ出タシテ露次シ檄ヲ  
移シテ北征ス其實ハ行カス群臣勸メテ晉王ノ位ニ即  
カシム其明年遂ニ皇帝ノ位ニ即ク是レヲ中宗元皇帝  
トナス

劉琨死ス

東晉元帝ノ時劉琨ナルモノ祖逖ト名ヲ齊フス琨嘗テ  
人ニ謂テ曰ク吾レ常ニ祖生カ吾レニ先チテ鞭ヲ著ン  
トテ恐ルト懷愍ノ時并州ノ刺史タリ軍ヲ出シテ石勒  
ヲ禦ク長史叛イテ勅ニ降ル時ニ幽州ノ刺史段匹磾蒯  
城ニ在リ人ヲ遣ハシ琨ヲ迎フ琨衆ヲ率ヒテ蒯ニ奔リ

匹磾ト血ヲ歃リテ晋室ヲ翼戴スルヲ盟フ初メ琨ノ子  
羣ナルモノ匹磾ノ弟段末杯ノ獲ル所トナル末杯厚ク  
之レヲ禮シ琨ヲ以テ幽州ノ刺史ト爲サンコトヲ許ス羣  
ト匹磾ヲ襲ハント欲シ密カニ使ヲ遣ハシ羣ニ書ヲ遣  
リ琨ニ請テ内應ヲ爲サシム書匹磾ノ邏騎ノ爲メニ獲  
ラル而テ琨實ハ知ラサルナリ竟ニ匹磾ノ爲メニ縊死  
セラル

石勒趙王ト稱ス

東晋元帝太興二年漢主劉聰卒シ子粲立ツ其臣靳準ヲ  
ルモノ弑シテ之レニ代ル劉曜自立シテ漢帝ノ位ニ即

キ國號ヲ改メ趙ト號ス勒ヲ以テ太司馬ニ拜シ趙公ト  
爲ス石勒兵ヲ率ヒ靳準ヲ討シ之レヲ斬リ使ヲ遣ハシ  
捷ヲ曜ニ獻ス曹平樂ナルモノ曜ニ言テ曰ク勒ノ使ヲ  
遣ハスハ其實強弱ヲ窺フ爲メナリ其ノ還ルヲ俟チ乘  
興ヲ襲ハントスルナリト曜乃チ其使ヲ市ニ斬ル勒大  
ヒニ怒リテ曰ク孤ノ劉氏ニ事フル人臣ノ職ニ於テ加  
フルアリ彼ノ基業皆ヲ孤ノ爲ス所ナリ今旣ニ志ヲ得  
ル還タ相ヒ圖ラント欲ス趙王趙帝孤自ラ之レト爲ル  
何ソ彼レヲ待タンヤト是ニ於テ勒自ラ趙王ト稱ス是  
レヲ後趙ト爲ス

祖逖死ス

東晋元帝太興四年豫州ノ刺史祖逖卒ス初メ逖譙城ヲ  
 取リ進ミテ雍丘ニ屯ス後趙ノ鎮戍之レニ歸スルモノ  
 甚タ衆シ逖將士ト甘苦ヲ同フシ勸メテ農桑ヲ課シ新  
 附ヲ撫納ス時ニ元帝戴淵ヲ以テ將軍ト爲シ來リテ諸  
 軍事ヲ都督ス逖刺史ト爲リ日夜努メテ荆棘ヲ剪リ河  
 南ノ地ヲ收ム而シテ淵雍容トシテ一旦來リテ之レヲ  
 統ルヲ以テ意甚タ快々タリ又々王敦ノ朝廷ト隙ヲ構  
 へ内難アラントスルヲ聞キ大功ノ遂ケサルヲ知リ感  
 激シテ病ヲ發ソ以テ卒ス豫州ノ士女之レヲ悲ム父母

ヲ喪スルカ如シ

拓跋猗盧三部ヲ總攝ス

鮮卑ノ拓跋祿官死シテヨリ猗盧三部ヲ總攝ス西晋懷  
 帝ノ時大單于ト爲リ代公ニ封セラル後チ愍帝猗盧カ  
 爵ヲ進メ王ト爲ス官屬ヲ置キ代常山ノ二郡ヲ食ム猗  
 盧少子ヲ愛シ立テ嗣ト爲サント欲ス而シテ其長子六  
 修ヲ出ス六修ヲシテ其弟ヲ拜セシム從ハスシテ去ル  
 大ニ怒テ之レヲ討ス兵敗レテ弑ニ遇フ猗盧屯ノ子普  
 根六修ヲ討滅シテ而テ自立ス尋テ卒ス國人猗盧カ弟  
 ノ子鬱律ヲ立ツ東晋太興四年猗屯カ妻鬱律ヲ殺シテ



其子賀傳ヲ立ツ鬱律カ子什翼健襁褓ニ在リ母王氏袴  
中ニ匿シ之ヲ祝シテ曰ク天苟クモ汝ヲ存セハ則チ啼  
ク勿レト之レヲ久フシテ啼カス乃チ免ル、ヲ得タリ

王敦ノ反

東晉元帝永昌元年荊州ノ刺史王敦反ス初メ元帝ノ江  
東ヲ鎮スルヤ敦從弟導ト心ヲ同フシ翼戴ス敦ハ征討  
ヲ總フ導ハ機政ヲ專ハラニス群從子弟皆ナ顯要ニ列  
ス時人相語テ曰ク王ト馬ト天下ヲ共ニスト敦先キニ  
揚州ノ刺史ヲ領シ征討諸軍ヲ都督ス進ンテ鎮東大將  
軍ト爲ル尋テ荊州ヲ領ス功ヲ恃ンテ驕恣ナリ帝畏レ

テ之レヲ惡ム乃チ劉隗刁協ヲ引テ腹心ト爲シ稍ク王  
氏ノ權ヲ抑損ス導亦タ漸ク疎外セララル敦ノ參軍錢鳳  
等凶狡ナリ敦ノ異志アルヲ知リ陰カニ之レヲ贊畫ス  
是ニ至リ敦遂ニ兵ヲ武昌ニ擧ケ劉刁ヲ誅スルヲ以テ  
名ト爲ス隗協帝ニ勸メテ盡ク王氏ヲ誅セントス帝許  
サス導宗族ヲ率ヒ每旦御史臺ニ詣リ罪ヲ待ツ周顛ナ  
ルモノ爲メニ上表シテ導ノ罪無キヲ明ス帝召シテ導  
ヲ見ル導稽首シテ曰ク亂臣賊子何レノ代カ之レ無カ  
ラン意ハサリキ近ク臣カ族ニ出テントハト帝跣シテ  
其手ヲ執リ曰ク茂弘方サニ卿ニ寄スルニ百里ノ命ヲ

以テセント以テ前鋒大都督ト爲ス敦石頭城ニ至リ之  
 レニ據ル曰ク吾レ復々君ニ奉スル能ハスト隗協等道  
 ナ分ケテ出テ戰フ大ニ敗レテ還ル帝百官ヲシテ石頭  
 ニ詣リ敦ヲ見セシム敦周顛ニ謂テ曰ク卿我レニ負ク  
 ト顛ノ曰ク公ノ戎車順ヲ犯ス下官親ラ六軍ヲ帥ヒ其  
 事ヲ能クセス王旅ヲシテ奔敗セシム此レヲ以テ公ニ  
 負ケリト敦遂ニ周顛ヲ殺シ遂ニ朝セスシテ去リ武昌  
 ニ還ル明帝大寧元年ニ至リ敦竟ニ位ヲ篡ハンヲ謀リ  
 移リテ姑熟ニ屯シ自ラ揚州ノ牧ヲ領ス

王敦ノ平定

東晋明帝太寧二年王導ヲ以テ司徒ト爲シ大都督ヲ加  
 ヘ諸軍ヲ督シ王敦ヲ討セシム敦復々反シ兵ヲ發シテ  
 病ム郭璞ヲシテ之レヲ筮セシム璞曰ク明公事ヲ起サ  
 ハ禍必ラス久シカラスト敦大ヒニ怒テ曰ク卿ノ壽ハ  
 幾何ソ璞ノ曰ク命ハ今日ノ日中ニ盡キント敦之レヲ  
 斬ル帝自ラ出テ敦ノ軍ヲ覘フ敦晝寢ヌ日其營ヲ環ク  
 ルト夢ム驚キ悟メテ曰テ黃鬚鮮卑ノ兒來ルヤト帝ノ  
 母ハ鮮卑ノ出ナリ亟カニ人ヲシテ之レヲ追ハシム及  
 ハス帝諸軍ヲ帥ヒテ出テ、南皇堂ニ屯ス夜壯士ヲ募  
 リテ水ヲ渡リ敦ノ兄王含ノ軍ヲ掩フテ大ヒニ之レヲ

破ル敦含ノ敗ヲ聞テ曰ク我カ兄ハ老婢ノミ門戸衰ヘ  
世事去ラント因テ勢ヲ作シ起テ自ラ行ント欲ス困乏  
シテ復タ臥ス尋ヒテ卒ス敦ノ黨悉ク平ラク敦ノ屍ヲ  
發キ之レヲ斬ル有司王氏ノ兄弟ヲ罪セント奏ス詔シ  
テ曰ク司徒導ハ大義ヲ以テ親ヲ滅ス將サニ十世之レ  
ヲ宥メントスト悉ク問フ所ナシ

陶侃ノ畧傳

陶侃字ハ士行鄱陽ノ人少フシテ孤貧ナリ孝廉范逵ナ  
ルモノ嘗テ之レニ過キル侃ノ母湛氏髮ヲ截テ賣テ酒  
食ヲ爲シ之レヲ饗ス後チ逵侃ヲ薦ム遂ニ名ヲ知ラル

初メ荆州都督劉弘ノ用ル所トナリ義陽ノ叛蠻張昌ヲ  
討シ又タ江東ノ叛將陳敏ヲ討シ又タ湘州ノ劇賊杜弢  
ヲ擊破ス江夏ノ太守ヨリ荆州刺史ト爲ル王敦之レヲ  
疾ミ廣州刺史ニ左遷ス侃廣州ニ在リ朝ニ百甓ヲ齋外  
ニ運ヒ暮ニ齋内ニ運フ人其故ヲ問フ答ヘテ曰ク吾レ  
方サニ力ナ中原ニ致サントス故ニ勞ヲ習フノミト東  
晋明帝太寧三年ニ至リ復タ荆州ヲ鎮ス士女相慶ス侃  
ノ性聰敏恭勤ナリ嘗テ曰ク大禹ハ聖人ナリ乃チ寸陰  
ヲ惜ム衆人ハ方サニ分陰ヲ惜ムヘシト諸叅佐ノ酒器  
蒲博ノ具ヲ取り悉ク江ニ投シテ曰ク樗蒲ハ牧猪奴ノ

戲レノミト嘗テ船ヲ造ル竹頭木屑ヲ籍シテ而テ之レ  
 ナ掌ラシム後チ正會ニ雪霽レ地濕フ木屑ヲ以テ地ニ  
 布ク後チ蜀ヲ征スルノ師起ルニ及ヒテ侃ノ竹頭ヲ得  
 テ釘ヲ作り船ヲ装ス其綜理微密ナルコ此レニ類ス侃  
 八洲ヲ都督シ威名赫然タリ或人謂フ侃嘗テ夢ム八翼  
 ナ生シテ天門ニ上ル八重ニ至リ左翼ヲ折リテ下ルト  
 ナ能ク跋扈ス折翼ノ夢ヲ思フ毎ニ輒チ自ラ抑制ス軍  
 ニ在ルコ四十二年明毅ニシテ善ク斷ス人欺クアタハ  
 ス南陵ヨリ白帝ニ至ルマテ數千里路遺チタルヲ拾ハ  
 ス成帝咸和九年疾シテ家ニ卒ス

蘇峻ノ反

東晋成帝咸和二年歷陽ノ内史蘇峻反ス峻前キニ臨淮  
 ニ守タリ王敦再ヒ闕ヲ犯セシ時ニ於テ入衛シテ功ア  
 リ威望漸ク著ル歷陽ニ在ルニ及ヒ卒銳ク器精ク志朝  
 廷ヲ輕ンシ亡命ヲ招納ス庾亮ナルモノ石頭城ヲ修メ  
 以テ之レニ備フ奏請シテ峻ヲ徵シ大司農ト爲ス峻兵  
 ナ擧ケテ姑孰ヲ陷ル尙書令卞壺ナルモノ軍ヲ督シ峻  
 下力戰シテ死ス二子之レニ隨ヒ皆亦タ敵ニ赴キテ死  
 ス母其屍ヲ撫シテ曰ク父ハ忠臣タリ子ハ孝子タリ何  
 ナカ恨シト峻ノ兵臺城ニ入ル庾亮出奔ス峻ノ兵闕ヲ

犯ス陶侃温嶠入テ援ケ峻ヲ討シテ之レヲ斬ル

前趙ノ亡

東晋成帝咸和三年後趙ノ主石勒大ヒニ趙ノ兵ヲ破リ  
劉曜ヲ獲タリ曜勒ト連リニ攻戰シ互ヒニ勝負アリ曜  
後趙ノ金墉城ヲ攻ム勒自ラ將トシ之レヲ救フ大ヒニ  
洛陽ニ戰フ趙ノ兵大ヒニ潰ヘ曜醉フテ馬ヨリ墮チ勒  
ノ爲メニ獲ラル歸テ之レヲ殺ス劉淵僭號シテヨリ是  
ニ至リテ四世三十七年前趙亡フ

石勒ノ僭號

東晋成帝咸和六年後趙ノ石勒天王ト稱ス尋ヒテ帝ト

稱ス七年大ヒニ羣臣ヲ饗シ徐光等ニ謂ツテ曰ク朕ハ  
古ノ何レノ主ニ方フヘキヤ光對ヘテ曰ク陛下ノ神武  
謀畧漢高ヨリ過キタリト勒笑フテ曰ク人豈ニ自ラ知  
ラサランヤ卿ノ言太タ過キタリ朕若シ高帝ニ遇ハ、  
當サニ北面シテ之レニ事フヘシ韓彭ト肩ヲ比ヘンノ  
ミ若シ光武ニ遇ハ、當サニ中原ニ並ヒ馳スヘシ未タ  
鹿ノ誰レノ手ニ死スルヲ知ラサルナリ大丈夫ノ事ヲ  
行フハ當サニ確々落々タル日月ノ皓然タルカ如ク  
ナルヘシ終ニ曹孟德司馬仲達ノ人ノ孤兒寡婦ヲ欺キ  
テ狐媚シテ以テ天下ヲ取ルニ效ハサルナリト勒學ハ

ストイヘ好シテ人ヲシテ書ヲ讀マシメ之レヲ聽キ  
時ニ其意ヲ以テ得失ヲ論ス聞クモノ悅服ス嘗テ漢書  
ヲ讀ムヲ聽ク酈食其ノ六國ノ後ヲ立ツルヲ勸ムルニ  
至リ驚テ曰ク此ノ法當サニ失スヘシ何ヲ以テカ遂ニ  
天下ヲ得タルヤト張良ノ諫ムルヲ聞クニ及ヒ乃チ曰  
ク賴ヒニ此レアルノミト後チ使ヲシテ好ミテ晋ニ修  
ム晋其ノ幣ヲ焚ク勸卒シ子弘立ツ石虎弘ヲ殺シ自立  
シテ趙天王ト爲リ勸カ種ヲ殺シテ遺ス<sub>ト</sub>無シ

代ノ什翼健祖業ヲ脩ム

代王賀正卒シ弟紇那嗣ク紇那出テ奔ル鬱律ノ子翳槐

立ツ紇那復タ還ル翳槐趙ニ奔ル趙翳槐ヲ代ニ納ル翳  
槐卒スルニ臨ミ諸大人ニ命シテ弟什翼健ヲ立テシム  
猗盧死シテヨリ代國內難多シ部落離散ス什翼健雄勇  
ニシテ智畧アリ能ク祖業ヲ修ム始メテ百官ヲ制ス號  
令明白政事清簡ナリ百姓之レヲ安ンス西晋成帝ノ時  
ニ至リ東ハ濊貊ヨリ西ハ破落那ニ及ヒ南ハ陰山ニ距  
リ北ハ沙漠ヲ盡シ率テ皆歸服ス衆數十方アリ拓跋氏  
是ヨリ愈大ナリ

王導ノ畧傳

王導字ハ茂弘東晋元帝ノ建業ヲ鎮スル<sub>時</sub>王導常ニ謀

主トナリ帝ヲ輔ケ王室ヲ復セントス王敦ハ導ノ從兄  
 ナリ敦反スルニ及ヒ導每旦臺ニ詣リ罪ヲ待ツ周顛將  
 サニ入ラントス導之レヲ呼ンテ曰ク伯仁百口ヲ以テ  
 卿ヲ累ハサント顛顧ミス入テ元帝ニ見ヘ導ノ忠誠ヲ  
 言ヒ申救スル甚タ至レリ帝モ亦タ其言ヲ納ル顛醉テ  
 出ツ導又タ呼フ顛與ニ言ハス左右ヲ顧ミテ曰ク今年  
 諸賊奴ヲ殺シテ金印ノ斗ノ大サノ如キヲ取り肘後ニ  
 繫ント旣ニシテ又タ上表シテ導ノ罪ヲキチ明カス導  
 知ラスシテ之レヲ恨ム帝導ヲ召シ見ル導稽首シテ曰  
 ク亂臣賊子何レノ世ニカ之レ無カラシ意ハサリキ近

ク臣ノ族ニ出テントハ帝跣シテ其ノ手ヲ執テ曰ク茂  
 弘マサニ卿ニ寄スルニ百里ノ命ヲ以テセント前鋒大  
 都督ト爲ス敦ノ周顛ヲ殺スニ及ヒ導之レヲ救ハス後  
 チ導中書ノ故事ヲ檢シ顛ノ上表ヲ見テ之レヲ執テ涕  
 ナ流シテ曰ク吾レ伯仁ヲ殺サストイヘ臣伯仁我レニ  
 由テ死セリ幽冥ノ間此ノ良友ニ負クト明帝立ツニ及  
 ヒ又導ヲ以テ司徒ト爲シ大都督ヲ加ヘ諸軍ヲ督シ王  
 敦ヲ討ス幾ハクモナクシテ敦ノ黨悉ク平ラク有司王  
 氏ノ兄弟ヲ罪セント奏ス詔シテ曰ク司徒導ハ大義ヲ  
 以テ親ヲ滅スマサニ十世之ヲ宥メント悉ク問フ所ナ

シ導ノ性寛厚其ノ委任スル所ノ諸將多ク法ヲ奉セス  
大臣之レヲ患フ庾亮兵ヲ起シテ導ヲ廢セントス或ル  
人導ニ勸メテ密ニ備ヘシム導ノ曰ク吾レ元規ト休戚  
是レ同シ元規若シ來ラハ吾レ便チ角巾ニシテ第ニ歸  
ラン復タ何ソ懼レンヤト導人ト爲リ簡素寡欲善ク事  
ニ因テ功ヲ就ス日用ノ益ナシトイヘ而テ歲計餘リ  
アリ晋ノ元帝明帝成帝ノ三世ニ輔相トナリ倉ニ儲穀  
ナク衣モ帛ヲ重チス成帝咸康五年壽ヲ以テ家ニ卒ス  
庾翼襄陽ヲ鎮ス

功名ヲ喜ミ浮華ヲ尙ハス時ニ杜乂段浩並ヒニ才名世  
ニ冠タリ翼獨リ之レヲ重ンセス曰ク此輩宜シク  
之レヲ高閣ニ束チ天下太平ヲ俟チテ然ル後徐カニ其  
任ヲ議スヘキノミト浩等徵僻皆チ就カス時人之レヲ  
管葛ニ擬ス其出處ヲ伺ヒ以テ江左ノ興亡ヲトス相謂  
テ曰ク淵源出テスンハ當カニ蒼生ヲ如何ンセント翼  
浩ヲ請テ司馬ト爲スモ辭シテ應セス瑯琊ノ内史桓温  
ナルモノ豪爽ニシテ風槩アリ翼之レト友トシ善シ嘗  
テ之レヲ薦メテ曰ク英雄ノオカリ宜シク委スルニ方  
召ノ任ヲ以テスヘシト翼胡ヲ滅シ蜀ヲ取ルヲ以テ已



レノ任ト爲ス建元元年詔シテ中原ヲ經畧セシテ議  
ス翼衆ヲ悉シテ北伐セント欲ス移テ襄陽ヲ鎮ス朝廷  
因テ征討軍事ヲ都督セシム翼温ヲ以テ前鋒都督ト爲  
ス未タ幾ナラスシテ卒ス

殷浩ノ謫死

東晋穆帝永和九年趙ノ姚弋仲卒シ子姚襄衆ヲ率ヒテ  
來歸ス詔シテ譙城ニ屯セシム後チ歷陽ニ屯ス楊豫州  
ノ都督殷浩壽春ニ在リ襄ノ強盛ヲ惡ミ屢々刺客ヲ遣  
リ之レヲ刺ントス客皆チ情ヲ以テ襄ニ告ク浩潛カニ  
將軍魏憬ヲシテ衆五千ヲ帥ヒ之レヲ襲ハシム憬敗レ

テ襄ノ爲メニ斬ラル時ニ朝廷中原ノ大ヒニ乱ル、ヲ  
聞キ進テ取シテ謀ル浩任ヲ受ケテ壽春ヨリ衆七萬  
ヲ帥ヒテ北伐ス襄甲ヲ伏シテ之レヲ邀フ浩山桑ニ至  
ル襄繼テ之レヲ撃ツ浩大ヒニ敗レ奔テ譙城ヲ保ス桓  
温之レヲ聞キ請フテ浩ヲ廢シテ庶人ト爲シ信安ニ徙  
ス朝廷初メ浩ヲ以テ温ニ抗セシム浩廢セラレ此レヨ  
リ内外ノ大權一ニ温ニ歸ス浩愁怨ストイヘ罷辭色ニ  
形ハサス嘗テ空ニ書シテ咄々怪事ノ字ヲ作ル之レヲ  
久フシテ郝超ナルモノ温ニ勸メテ浩ヲ令僕ニ處ラシ  
ム書ヲ以テ之レニ告ク浩欣然タリ答書ニ誤リアラン

ヲ慮リ開閉スルヲ十數竟ニ空函ヲ達ス温大ヒニ怒リ  
テ遂ニ絶ツ謫所ニ卒ス

桓温秦ヲ伐ツ

東晋穆帝永和十年桓温師ヲ帥ヒテ秦ヲ伐チ大ヒニ秦  
ノ兵ヲ藍田ニ敗ル轉戦シテ灊上ニ至ル秦主苻健長安  
ノ小城ヲ閉テ自ラ守ル三輔皆ヲ來リ降ル温居民ヲ撫  
諭シテ安堵セシム民争フテ牛酒ヲ持シテ迎ヘ勞ス男  
女路ヲ夾ミテ之レヲ觀ル耆老泣ヲ垂ル、モノアリ曰  
ク圖ラサリキ今日復タ官軍ヲ觀ントハト北海ノ王猛  
倜儻ニシテ大志アリ華陰山ニ隱居ス温ノ關ニ入ルヲ

聞キ禍ヲ被テ之レニ謁ス虱ヲ捫リテ當世ノ務ヲ談ス  
旁ラニ人ナキカ如シ温之レヲ異トシ問フテ曰ク吾レ  
命ヲ奉シ殘賊ヲ除ク而ルニ三秦ノ豪傑未タ至ルモノ  
アラサルハ何ソヤ猛ノ曰ク公千里ヲ遠シトセスシテ  
深ク敵境ニ入ル今長安ハ咫尺ナリ而テ灊水ヲ渡ラス  
百姓未タ公ノ心ヲ知ラス至ラサル所以ナリト温默然  
トシテ以テ應スルナシ温又タ秦ノ兵ト白鹿原ニ戦フ  
利アラス秦人野ヲ清ム温ノ軍食ニ乏シ猛ト俱ニ還ラ  
ント欲ス猛辞シテ就カス

桓温姚襄ヲ討ス

東晉穆帝永和十二年姚襄燕ニ降り北ノ方許昌ニ據ル  
 又々洛陽ヲ攻ム桓温諸軍ヲ督シ襄ヲ討ス進シテ河上  
 ニ至ル寮屬ト平乘樓ニ登リ北ノ方中原ヲ望ミテ曰ク  
 神州ヲシテ陸沈セシムル百年王夷甫ノ諸人其責ニ任  
 セサルヲ得スト伊水ニ至ル襄戰テ連リニ敗レテ走ル  
 温金墉ニ屯シ諸陵ニ謁シ鎮戍ヲ置キテ還ル襄將サニ  
 西ノ方關中ヲ圖ラントス秦主苻堅兵ヲ遣ハシ拒キ擊  
 テ襄ヲ斬ル襄ノ弟萇衆ヲ以テ秦ニ降ル

## 桓温ノ畧傳

桓温字ハ元子東晉穆帝ノ時庾翼ニ代リ荆梁等ノ州ノ

軍事ヲ都督ス初メ翼ノ病ムヤ其子ヲ表シテ荆州ヲ領  
 セシム何充曰ク荆楚ハ國ノ西門ナリ豈白面ノ少年ヲ  
 以テ之レニ當ツヘケンヤ桓温ハ英略人ニ過キタリ西  
 任ハ温ニ出ヅル者ナシト丹陽ノ尹劉惔温カ不臣ノ志  
 アルヲ知テ會稽王ニ謂テ曰ク温ヲハ形勝ノ地ニ居ラ  
 シムベカラズト豈聽カズ竟ニ温ヲ以テ翼ニ代フ哀帝  
 ノ時ニ至リ温大司馬トナリ中外諸軍事ヲ都督シ尙書  
 ノ事ヲ録ス揚州ノ牧ヲ加ヘラレ移リテ姑孰ヲ鎮セリ  
 郝超ヲ以テ參軍トナシ王珣ヲ主簿ト爲ス人爲メニ語  
 リテ曰ク髡參軍短主簿能ク公ヲシテ喜ハシメ能ク公

ナシテ怒ラシムト温陰カニ不臣ノ志ヲ畜フ嘗テ枕ヲ  
 撫テ歎シテ曰ク男子芳ヲ百世ニ流ス能ハスンハ亦タ  
 當サニ臭ヲ万年ニ遺スヘシト帝奕太和四年燕人ト枋  
 頭ニ戰ヒ敗績ス是ニ於テ威名頓ニ挫ク郗超温ニ勸メ  
 伊霍ノ事ヲ行ヒ大威權ヲ立テヨト温遂ニ帝ヲ廢シテ  
 簡文帝ヲ立ツ帝不豫ナリ温ヲ召シ入テ輔ケシム諸葛  
 武侯王丞相ノ故事ノ如クス温帝ノ終ニ臨ミ位ヲ禪ラ  
 シテ望ム否ラサレハ攝ニ居ラントス時ニ謝安王坦之  
 ナルモノ朝ニ在リ温坦之ト安ト其ノ事ヲ沮ムト疑カ  
 ヒ心甚タ之レヲ銜ム帝崩シ孝武帝立ツ温來朝ス帝謝

安王坦之ニ詔シ之レカ新亭ニ迎フ都下胸々タリ云フ  
 王謝ヲ誅シ因テ晋祚ヲ移サント欲スト坦之甚タ懼ル  
 安神色變セス温既ニ至ル百官道ノ側ニ拜ス温大ヒニ  
 兵衛ヲ陳シテ朝士ヲ延見ス坦之汗ヲ流シ衣ヲ沾ホシ  
 倒シマニ手板ヲ執ル安從容トシテ席ニ就ク温ニ謂テ  
 曰ク安聞ク諸侯道アレハ守リ四隣ニ在リト明公何ツ  
 壁後ニ人ヲ置クヲ須ヒンヤ温笑テ曰ク正ニ自テ爾ヲ  
 カルヲ得スト遂ニ命シ之レヲ徹ス安ト笑語シテ日ヲ  
 移ス郗超帳中ニ臥シテ其ノ言ヲ聽ク風動イテ帳開ク  
 安笑テ曰ク郗生ハ入幕ノ賓ト謂ツヘシト温疾ヒアリ

テ姑孰ニ還ル疾ヒ篤シ諷シテ九錫ヲ求ム安ト坦之ト  
故ラニ其事ヲ緩フス尋テ卒ス

### 王猛ノ畧傳

王猛字ハ景略北海ノ人倜儻ニシテ大志アリ華陰山ニ  
隱居ス初メ桓温ニ謁ス桓温之レト江東ニ還ラント欲  
ス猛其禍ノ及ハンヲ恐レ辭シテ就ス時ニ秦主生飲酒  
度ナク醉ニ乘シ殺戮スル所多シ羣臣甚々脅息ス獨リ  
東海王堅時譽アリ參軍薛讚等ト善シ讚堅ニ説キ計ヲ  
爲サシム堅以テ尙書呂婆樓ニ問フ婆樓ノ曰ク僕ノ里  
舍ニ王猛ナルモノアリ謀畧不世出ナリ宜シク請フテ

之レニ咨ルヘシト堅因テ招ク一見舊友ノ如ク語テ時  
事ニ及フ堅大ヒニ悦ビ自ラ謂ラク玄徳ノ孔明ニ遇ヘ  
ルカ如シト堅遂ニ生ヲ弑シ自立シテ大秦天王ト稱ス  
猛尙書左相ト爲リ日ニ親幸セラレ事ヲ用ユ勲舊多ク  
之ヲ疾ム堅氏豪樊世ト關中ヲ定ム猛ニ謂テ曰ク吾輩  
之レヲ耕シ君之レヲ食フカ猛ノ曰ク徒ニ君ヲシテ耕  
サシムルノミナラス又々君ヲシテ炊カシメントスル  
ナリト東晉簡文帝ノ時秦ノ承相ト爲リ又々中外諸軍  
事ヲ都督ス猛ノ相トナル剛明清肅善惡著白ニシテ尸  
素ヲ放黜シ幽滯ヲ顯拔シ農桑ヲ勸課シ軍旅ヲ練習シ

官必ラスオニ當リ刑必ラス罪ニ當ル是レニ由リ秦國  
 富ミ且ツ強シ戰ヒ克サルナク秦國大ヒニ治マル猛卒  
 スルニ臨ミ秦主訪フニ後事ヲ以テス猛ノ曰ク晋ハ江  
 南ニ僻處ストイヘ正朔相承ケ上下安和ナリ  
 臣沒スルノ後願クハ晋ヲ以テ圖ヲ爲スナカレ鮮卑西  
 羌ハ我カ仇敵ナリ終ニ人ノ患ヲ爲サン宜シク漸ク之  
 レヲ除キ以テ社稷ヲ安ンスヘシト秦主其ノ死ヲ聞キ  
 之ヲ哭シテ曰ク天吾レヲシテ六合ヲ平一ニセシムル  
 ナ欲セサルカ何ソ吾カ景略ヲ奪フノ速ヤカナルヤト

## 肥水ノ役

東晋孝武帝大元元年秦主苻堅勢ヒ益々猖獗晋之レヲ  
 憂ヒ文武良將ノ北方ヲ鎮禦スヘキモノヲ求ム謝安兄  
 ノ子玄ヲ以テ詔ニ應シ廣陵ヲ鎮セシメ劉牢之等之レ  
 カ參軍タリ戰フテ捷タサルナシ北府兵ト號ス敵人之  
 レヲ畏ル此ノ時秦兵道ヲ分チ來寇シ諸郡ヲ陷レ襄陽  
 ノ刺史序ヲ執ヘ以テ歸ル已ニシテ大舉ヲ議ス或人曰  
 ク晋ニ長江ノ險アリト堅曰ク吾カ兵衆ヲ以テ鞭ヲ江  
 ニ投スルモ其流レヲ斷ツヘシ何ノ難キカ之レアラシ  
 ト中外皆ヲ諫ム聽カス遂ニ長安ノ戍卒六十餘萬ト騎  
 兵二十七萬ヲ發ス晋謝石ヲ以テ征討大都督ト爲シ謝

玄ヲ前鋒都督ト爲シ衆八萬ヲ督シテ之レヲ拒ク劉牢  
之精兵五千ヲ帥ヒ洛澗ニ趨キ直チニ水ヲ渡テ秦ノ前  
鋒梁成ヲ撃テ之レヲ斬ル石等水陸繼テ進ム堅壽陽城  
ニ登リ望見ス晋ノ兵部陳嚴整ナリ又々八公山ノ草木  
ヲ望見シ以テ晋ノ兵ト爲ス憚然トシテ懼ル、色アリ  
秦ノ兵肥水ニ逼テ而シテ陣ス玄人ヲシテ謂ハシメテ  
曰ク陣ヲ移シ少ク却ケ我カ兵ヲシテ渡ヲ得セシメ以  
テ勝負ヲ決セン可ナランカト堅晋ノ兵ニ聽テ其半ハ  
渡ルキ之レヲ蹙ント欲シ兵ヲ壓テ却カシム秦ノ兵退  
ク復々止ム可カラス朱序陣後ニアリ大呼シテ曰ク秦

ノ兵敗ルト遂ニ大ニ潰ユ玄等勝ニ乘シ追撃ス秦ノ兵  
ノ走ルモノ風聲鶴唳ヲ聞テ皆以テ晋ノ兵至ルト爲シ  
散亂ス堅狼狽シテ長安ニ還ル

謝安ノ畧傳

謝安字ハ安石陳國陽夏ノ人年四歲桓彝之レヲ見テ曰  
ク此ノ兒ハ風神秀徹後チ當サニ王承ニ滅セサルヘシ  
ト初メ辟除並ヒニ就カス常ニ臨安山中ニ往キ情ヲ丘  
壑ニ放ニス時人相與ニ言フ安石出テ肯セスンハ蒼生  
ヲ如何セント年四十始メテ仕ヘテ軍ノ司馬タリ東晋  
孝武帝ノ時太保タリ安ノ人ト爲リ文雅ニシテ德量ア

リ大元元年奏ノ寇至ルニ方テ朝野震動ス安獨リ夷然  
トシテ碁ヲ圍ミテ墅ヲ賭ニス群書至ルキ安方ニ客ト  
碁ス覽畢リテ坐側ニ置ク喜フ色ナシ碁罷ム客之レヲ  
問フ徐カニ曰ク小兒輩已ニ遂ニ賊ヲ破レリト客去ル  
ニ及ンテ安戸ニ入り喜フ甚シ屐齒ノ折ル、ヲ覺ヘス  
其ノ情ヲ矯メ物ヲ鎮スル常ニ此ノ如シ大元十年病ヲ  
以テ卒ス

桓玄反ス

東晋ノ桓玄父温ニ嗣キテ南郡公ト爲リ其才地ヲ負ミ  
雄豪ヲ以テ自ラ處ル嘗テ義興ニ守タリ歎メ曰ク父ハ

九州ノ伯タリ兒ハ五湖ノ長タリト官ヲ棄テ國ニ歸ル  
後チ江州ノ刺史ト爲ル尋テ荆江等八州ノ軍事ヲ都督  
ス東晋安帝隆安三年ニ兵ヲ舉ケテ建康ニ入り會稽王  
ノ世子元顯ヲ殺シ又タ會稽王道子ヲ殺ス玄相國ト爲  
リ楚王ニ封セラル九錫ヲ加フ已ニシテ帝ニ迫リ位ヲ  
禪ラシム劉裕兵ヲ京口ニ起シ玄ヲ討ス玄ノ兵ト戰ヒ  
大ニ之レヲ破ル玄出走ス首ヲ江陵ニ斬ル帝位ニ復ス  
劉裕京口ヲ鎮ス

南朝ノ治亂興亡

宋ノ高祖武帝東晋ノ末ニ起リ反賊桓玄ヲ誅シ孫恩盧



循ヲ平ケ南燕後秦ヲ滅シ再ヒ王室ヲ興ス卒イニ晋ニ  
 代リテ天子ト爲ル時ニ拓跋氏帝ヲ魏ニ稱ス對立シテ  
 南北兩朝ト爲ル廢帝滎陽王繼テ立チ喪ニ居ル禮ナク  
 遊戯度ナシ徐羨之傅亮等廢シテ之レテ弑シ文帝ヲ迎  
 ヘ立ツ帝仁厚恭儉頗ル政治ニ勤メ百姓ヲ撫恤ス位ニ  
 即テヨリ以來二十八年ノ間四境ノ内晏然トシテ戸口  
 蕃息ス後ノ政治ヲ言フモノ皆ナ文帝元嘉ノ年ヲ稱ス  
 ト云フ末年數々魏ト兵ヲ交ヘ大ニ河南ニ敗レ遂ニ其  
 ノ蹂躪スル所トナリ邑里蕭條タリ元嘉ノ政始メテ衰  
 フ後チ太子劭帝ヲ弑シテ自立ス武陵王駿兵ヲ擧ケ劭

ナ誅ス宋人駿ヲ立ツ之レチ武帝ト爲ス帝奢侈度ナク  
 位ニ在ルコト久シカラス廢帝恣ニ不道ヲ爲シ中外騷然  
 タリ左右之レチ弑ス明帝ヲ歷テ後廢帝ニ至リ桂陽王  
 休範兵ヲ擧ゲテ反ス蕭道成擊テ之レチ斬ル帝驕恣ニ  
 シテ殺スコトヲ嗜ム中外憂惶ス道成褚淵ト之レチ弑シ  
 順帝ヲ迎ヘ立ツ道成復タ之レチ廢シ自ラ帝ト稱シ遂  
 ニ宋ヲ篡フ是レチ齊ノ太祖高帝トナス宋高祖ヨリ是  
 ニ至テ八世凡ソ五十九年ニシテ亡ブ  
 齊ノ太祖高帝宋ニ代リテ天子ト爲リ數々魏ノ寇ヲ受  
 ク性清儉ナリ毎ニ曰ク我レチシテ天下ヲ治ムルコト

年ナラシメバ當サニ黄金ナシテ土價ト同ジカラシム  
ベシト位ニ在ルコ僅ニ四年ニシテ殂ス武帝立ツ心ヲ  
政事ニ留メ務メテ大體ヲ總フ百姓豐樂ニシテ賊盜屏  
息ス廢帝鬱林王廢帝海陵王ノ二帝皆ナ西昌侯鸞ノ弒  
スル所トナル鸞自立ス是レヲ明帝ト爲ス魏又々數々  
來リ寇ス大司馬王敬則兵ヲ舉ゲテ反ス將軍胡松等擊  
テ之レヲ斬ル廢帝東昏侯立テ昏淫狂恣ナリ大尉陳顯  
達先ヅ兵ヲ舉ケテ建康ヲ襲フ將軍雀慧景命ヲ受ケテ  
叛州ヲ討シ兵ヲ還シテ建康ニ逼ル蕭衍兵ヲ襄陽ニ起  
シ又々建康ヲ圍ム帝遂ニ齊人ノ弒スル所ト爲ル和帝

立テ齊太后制ヲ稱シ蕭衍ヲ以テ相國ニ封シ尋テ梁王  
トナス衍竟ニ帝ヲ廢弒シテ禪リヲ受ク是レヲ梁ノ高  
祖武帝ト爲ス齊高帝ヨリ是ニ至テ七世凡ソ二十三年  
ニシテ亡フ  
梁ノ高祖武帝齊ニ代リテ天子ト爲リ身ヲ持スル恭儉  
ニシテ能ク政務ヲ勤ム然レモ士人ヲ遇スル優假ニ過  
キ牧守多ク百姓ヲ侵漁シ使者數々郡縣ヲ干擾シテ之  
レヲ禁スル能ハス又々好ンテ小人ヲ親任シ頗フル苛  
察ニ傷ツク天監中ヨリ既ニ釋氏ノ法ヲ信シ多ク寺塔  
ヲ造リ公私ノ費用ヲ損セリ大同中李賁盧子略亂ヲ爲

年ナラシメバ當サニ黄金ヲシテ土價ト同ジカラシム  
ベシト位ニ在ルコ僅ニ四年ニシテ殂ス武帝立ツ心ヲ  
政事ニ留メ務メテ大體ヲ總フ百姓豐樂ニシテ賊盜屏  
息ス廢帝鬱林王廢帝海陵王ノ二帝皆ナ西昌侯鸞ノ弑  
スル所トナル鸞自立ス是レヲ明帝ト爲ス魏又々數々  
來リ寇ス大司馬王敬則兵ヲ擧ゲテ反ス將軍胡松等擊  
テ之レヲ斬ル廢帝東昏侯立テ昏淫狂恣ナリ大尉陳顯  
達先ヅ兵ヲ擧ゲテ建康ヲ襲フ將軍雀慧景命ヲ受ケテ  
叛州ヲ討シ兵ヲ還シテ建康ニ逼ル蕭衍兵ヲ襄陽ニ起  
シ又々建康ヲ圍ム帝遂ニ齊人ノ弑スル所ト爲ル和帝

立テ齊大后制ヲ稱シ蕭衍ヲ以テ相國ニ封シ尋テ梁王  
トナス衍竟ニ帝ヲ廢弑シテ禪リヲ受ク是レヲ梁ノ高  
祖武帝ト爲ス齊高帝ヨリ是ニ至テ七世凡ソ二十三年  
ニシテ亡フ  
梁ノ高祖武帝齊ニ代リテ天子ト爲リ身ヲ持スル恭儉  
ニシテ能ク政務ヲ勤ム然レモ士人ヲ遇スル優假ニ過  
キ牧守多ク百姓ヲ侵漁シ使者數々郡縣ヲ干擾シテ之  
レヲ禁スル能ハス又々好ンテ小人ヲ親任シ頗フル苛  
察ニ傷ツク天監中ヨリ既ニ釋氏ノ法ヲ信シ多ク寺塔  
ヲ造リ公私ノ費用ヲ損セリ大同中李賁盧子略亂ヲ爲

ス陳霸先並ニ討テ之レヲ平ラク太清中侯景兵ヲ擧ケ  
 テ壽陽ニ反シ臺城ヲ陷ル帝遂ニ景ノ爲メニ制セラレ  
 憂憤シテ疾ヒテ成シテ殂ス簡文帝繼テ立ツ制ヲ景ニ  
 受クルノミ景自立シテ漢王ト稱ス帝ヲ廢弑シテ豫章  
 王棟ヲ立ツ已ニシテ景位ヲ篡フ數月ニシテ陳霸先等  
 ノ討ツ所トナリ吳ニ走リ遂ニ誅ニ伏ス元帝繼テ立ツ  
 時ニ侯景ノ亂後ヲ承ケ州郡大半西魏ニ入ル承聖中西  
 魏大擧シテ來リ伐チ江陵ニ入ル帝ヲ執ヘテ之ヲ殺ス  
 西魏襄陽ヲ取り梁王譽ヲ江陵ニ徙シテ帝ト稱セシメ  
 兵ヲ屯シテ之レヲ守ル是レヲ後梁ト爲ス西魏ニ臣タ

リ王僧辨陳霸先晋安王ヲ奉シテ制ヲ建康ニ稱ス僧辨  
 又々貞陽侯淵明ヲ北齊ヨリ迎ヘ建康ニ歸リ帝ト稱ス  
 霸先僧辨ヲ殺シ淵明ヲ廢シテ晋安王ヲ立ツ是レヲ敬  
 帝ト爲ス帝立テ霸先相國ト爲ル尸位未ダ三年ナラズ  
 シテ霸先帝ヲ廢弑シテ竟ニ禪リヲ受ク是レヲ陳ノ高  
 祖武帝ト爲ス梁高祖武帝ヨリ是ニ至テ四世凡ソ五十  
 六年ニシテ亡フ

陳ノ高祖武帝梁ニ代リテ天子ト爲リ政ヲ爲スニ務メ  
 テ寬簡ヲ崇フ軍旅急務アルニ非レハ輕々シク調發セ  
 ス民以テ安息ス文帝艱難ヨリ起リ民ノ疾苦ヲ知リ儉

約ニシテ政事ニ勤ム天下無事ナリ廢帝臨海王立ツ安成王頊之レヲ廢シテ自立ス之レヲ宣帝ト爲ス廣州ノ刺史歐陽紇反ス陳人討テ之レヲ斬ル後主長城煬公ニ至リ奢侈ヲ極メ政事ヲ親ラセス遂ニ隋ノ滅スル所トナル陳高祖武帝ヨリ是ニ至テ五世凡ソ二十二年南朝是ニ於テ亡フ

北朝ノ治亂興亡

魏ノ拓跋氏初メ鮮卑ニ國ス西晋ノ末分レテ三部ト爲ル晋人附ク者稍衆シ懷帝ノ時猗盧三部ヲ總攝ス大單于ト爲リ代公ニ封セララル後チ王ト爲ル數世ヲ經テ什

翼健ニ至リ雄勇ニシテ智略アリ部衆數千万人アリ拓跋氏はレヨリ愈々大ナリ秦主苻堅ノ代ヲ擊ツニ當リ秦主代ヲ分ツテ二部トナス東晋ノ末珪復タ立テ代王ト爲リ國ヲ魏ト改ム遂ニ帝ト稱ス是レヲ道武帝トナス明元帝ヲ歷テ太武帝ニ至リ燕ヲ亡ホシ北凉ヲ滅シ又タ數々宋ヲ侵シ國頗フル虚耗ス文成帝嗣テ立ツ剛毅ニシテ果斷アリ務メテ中外ヲ懷集ス人心復タ安シ後チ馮太后帝ヲ弑シテ自ラ制ヲ稱ス獻文帝ヲ歷テ孝文帝ニ至リ仁孝恭儉禮ヲ制シ樂ヲ作り蔚然トシテ太平ノ風アリ胡服胡語ヲ禁シ姓ヲ元氏ト改メ都ヲ洛陽

ニ遷ス魏ノ盛徳ノ主タリ宣武帝ノ後孝明帝遊騁ヲ好  
 ミ政事ヲ視ス母胡后制ヲ稱ス后亦タ淫亂ナリ嬖倖事  
 ナ用ヒ政事縱弛ス盜賊蜂起シ封疆日ニ蹙マル魏ノ政  
 始メテ亂ル后遂ニ帝ヲ鳩殺ス爾朱榮兵ヲ擧ケ孝莊帝  
 ナ立テ胡后ヲ河ニ沈ム榮不臣ノ志ヲ畜フ帝終ニ之レ  
 ナ誅ス帝亦タ榮ノ弟世隆等ノ爲メニ弑セラル高歡兵  
 ナ起シテ爾朱氏ヲ誅シ孝武帝ヲ立ツ歡丞相トナリ府  
 ナ晋陽ニ建テ之レニ居ル帝歡ヲ畏ル晋陽ヲ伐ント謀  
 ル歡兵ヲ擁シテ來ル帝長安ニ奔リ宇文泰ニ依ル歡孝  
 靜帝ヲ立テ鄴ニ都ス是ニ於テ魏分レテ二ト爲ル長安

ヲ西魏ト云ヒ鄴ヲ東魏ト云フ東魏國ヲ建ツル十七  
 年ニシテ位ヲ齊王高洋ニ禪ル是レヲ北齊ト爲ス東魏  
 遂ニ亡フ西魏國ヲ立ツル十七四世二十四年ニシテ位ヲ  
 周公宇文覺ニ禪ル是レヲ後周ト爲ス西魏遂ニ亡フ北  
 齊國ヲ建ツル十七五世三十年ニシテ周ノ滅ホス所トナ  
 ル後周國ヲ建ツル十七五世二十五年ニシテ隋ノ滅ホス  
 所トナル北朝是ニ於テ亡フ

陶潛ノ畧傳

陶潛字ハ淵明潯陽ノ人侃ノ曾孫ナリ少フシテ高趣アリ博學不羣親老ヒ家貧シキヲ以テ州ノ祭酒ト爲ル少

ラクニシテ解キ歸ル主薄ニ召サルレ正就カス躬耕シ  
 テ自ラ資ク遂ニ羸疾ヲ抱ク南宋文帝ノ時彭澤ノ令ト  
 爲ル官ニ在ル八十餘日郡ノ督郵至ル吏請フテ曰ク應  
 サニ束帶シテ之レニ見ユヘシト潜歎シテ曰ク我レ豈  
 ニ能ク五斗米ノ爲メニ腰ヲ折リ郷里ノ小兒ニ向ハン  
 ヤト即日印綬ヲ解キテ去ル歸去來ノ辭ヲ賦シ五柳先  
 生ノ傳ヲ著シ以テ自ラ見ハス著作郎ニ徵サル就カス  
 其妻翟氏モ亦々與ニ志ヲ同フシ能ク苦節ニ安ンス夫  
 ハ前ニ耕シ妻ハ後ニ鋤ス潛自ラ先世晋ノ臣タルヲ以  
 テ宋ノ高祖王業漸ク隆ンナリシキヨリ復々肯テ仕ヘ

スシテ卒ス靖節先生ト號ス

謝靈運誅セラレ

南宋文帝ノ時謝靈運ナルモノアリ好ンテ山澤ノ遊ヒ  
 ナ爲ス幽ヲ窮メ險ヲ極ム從者數百人木ヲ伐リ徑ヲ開  
 ク百姓驚擾シ以テ山賊ト爲ス會稽ノ太守孟顛ナルモ  
 ノ其ノ異志アルヲ表ス靈運闕ニ至リ自ラ陳ス帝以テ  
 臨川ノ内史ト爲ス靈運遊放自若タリ有司ノ糾ス所ト  
 爲ル朝廷使ヲ遣リ之レヲ收ヘントス靈運使者ヲ執ヘ  
 兵ヲ興シテ逃逸ス詩ヲ作りテ曰ク韓亡ヒテ子房奮フ  
 秦帝ニシテ魯連耻ツト追討シテ之レヲ擒ニシ廣州ニ

徙ス既ニシテ棄市セララル

北魏司徒崔浩ヲ殺ス

北魏ノ崔浩明元帝ノ時ヨリ已ニ謀臣トナリテ功アリ  
其司徒タルニ及ヒ道士寇謙之ヲ信シ魏主ニ勸メテ之  
レヲ崇奉セシメ天師ノ道場ヲ立ツ而シテ最モ佛法ヲ  
惡ミ每ニ魏主ニ言フ佛ハ虛誕ニシテ世ノ費害ヲ爲ス  
宜シク之レヲ除クヘシト佛像佛書ヲ破毀シ沙門ヲ誅  
シ少長トナク之レヲ坑ニス後チ魏主浩ニ命シテ國史  
ヲ修メシム浩其ノ先世ノ事ヲ書シ皆實ヲ詳カニシ石  
ニ刊シテ之レヲ衢路ニ立ツ魏ノ人忿恚シ浩ノ國惡ヲ

暴揚スルヲ譖ス魏主大ヒニ怒リテ遂ニ案シテ之レヲ  
誅シ其族ヲ夷ラク

王玄謨ノ敗軍

南宋北魏ト連年互ヒニ相ヒ侵伐ス南宋ノ文帝元嘉廿  
七年王玄謨ナルモノ文帝ニ勸メテ大舉セシム沈慶之  
諫メテ曰ク畊シスルハ當サニ奴ニ間フヘシ織リモノ  
スルハ當サニ婢ニ間フヘシ今マ國ヲ伐タント欲シテ  
奈何ソ白面ノ書生ト之レヲ謀ルヤト帝竟ニ玄謨ヲシ  
テ師ヲ出サシム碯礮ヲ取り進ンテ滑臺ヲ圍ム是レヨ  
リ先キ魏主宋ノ河南ヲ取ルト聞キ怒テ曰ク我カ生レ



百二  
テ髮未タ燥カサルニ巳ニ河南ハ是レ我カ地ナリト聞  
ケリ今天時尙ホ熱ス姑ク戍ヲ歛メテ北ニ歸リ河水ノ  
合スルヲ待テ鐵騎ヲ以テ之レヲ蹂シメント冬ニ至リ  
魏主自ラ將トシテ河ヲ渡ル衆百萬ト號ス鼓聲天地ニ  
震フ玄謨懼レテ走ル魏人追撃ス玄謨敗走ス魏主兵ヲ  
引テ南ニ下リ直チニ瓜步ニ至ル江ヲ渡ラント欲スト  
聲言ス建康震懼ス民皆荷擔シテ立ツ帝石頭城ニ登リ  
北望シ歎シテ曰ク檀道濟若シ在ラハ豈ニ胡馬ヲシテ  
此ニ至ラシメンヤト蓋シ道濟ハ前朝ノ功臣ニシテ兵  
事ニ老ケタリ是レヨリ先キ讒ヲ以テ收ヘラル目光炬

ノ如ク憤ヲ脱シテ地ニ投シテ曰ク汝ノ萬里ノ長城ヲ  
壞ルト巳ニ誅セラル魏人道濟ノ死ヲ聞キ喜ンテ曰ク  
吳子輩復タ憚カルニ足ラスト是ニ至リ長驅ス能ク禦  
クモノ無シ宋人或ハ玄謨ヲ斬ラント欲ス沈慶之之レ  
ヲ止テ曰ク佛狸威天下ニ震フ控弦百萬豈ニ玄謨ノ能  
ク當ル所ナランヤ戰將ヲ殺シ以テ自ラ弱ムルハ計ニ  
アラスト魏ノ師還ル殺掠勝ケテ計ルヘカラス丁壯者  
ハ斬截セラレ嬰兒ハ槩上ニ貫セラル過ル所赤地トナ  
ル春燕歸テ林木ニ巢フニ至リ邑里蕭條タリ

高歡財ヲ散シテ客ヲ結フ

北魏ノ主詔立テ甫メテ六歳ナリ母胡氏制ヲ稱ス詔既ニ長スルニ及ヒ遊騁ヲ好ミ親カラ朝ヲ視ズ而シテ胡后方サニ淫亂ナリ時ニ將軍張彝ノ子仲瑀封事ヲ上ツテ武人ヲ排抑ス喧謗路ニ盈ツ榜ヲ大巷ニ立テ期ヲ尅シテ會集シ其家ヲ屠ラントス彝ノ父子以テ意ト爲カズ是ニ至リテ羽林虎賁ノ士千人許リ相率イテ尙書省ニ至リ詬罵シテ瓦石ヲ以テ省門ヲ擊ツ上下懼シテ敢テ禁討セズ遂ニ彝ノ第ニ至リ其舍ヲ焚キ彝ノ父子ヲ曳テ毆擊シテ火中ニ投ス仲瑀重ク傷イテ走り免ル彝遂ニ死ス遠近震駭ス胡后其凶強八人ヲ收メテ之レ

ヲ斬ル餘ハ復タ問フ所ナシ大赦シテ以テ之レヲ安ンズ懷朔鎮ノ函使高歡洛陽ニ至ル張彝ノ死ヲ見テ家ニ還リ貲ヲ傾ケ以テ客ニ結ブ或人其故ヲ問フ歡ガ曰ク宿衛相率イテ大臣ノ第ヲ焚ク朝廷懼レテ問バズ政ヲ爲ス此クノ如シ事知ルベシ財物ハ豈ニ常ニ守ル可ケンヤト歡先世ヨリ法ニ坐セラレテ北邊ニ徙ル遂ニ鮮卑ノ俗ニ習フ沈深ニシテ大志アリ侯景等ト相友トシ善シ任俠ヲ以テ郷里ニ雄タリ

侯景臺城ヲ陷ル

東魏ノ興和四年侯景ヲ以テ河南ノ大行臺ト爲ス未タ

幾バクナラズシテ司空ト爲ス梁ノ高歡卒スルニ臨ミ  
 其ノ子澄ニ囑シテ曰ク侯景ハ河南ヲ專制スルヲ十四  
 年常ニ飛揚跋扈ノ志アリ我レ能ク之ヲ畜養セリ汝ノ  
 能ク駕御スル所ニアラザルナリ之ニ敵スルニ堪ユル  
 モノハ獨リ慕容紹宗ナリト景果シテ河南ヲ以テ西魏  
 ニ降ル未タ幾ハクナラズシテ復タ梁ニ附ク梁景ヲ封  
 ジテ河南王ト爲ス初メ景ノ使梁ニ至ル梁ノ群臣皆納  
 ル、ヲ欲セズ梁帝モ亦タ謂フ我カ國家ハ金甌ノ如シ  
 一モ傷歛スルヲ無シ景ヲ納ルレバ因テ以テ事ヲ生セ  
 ント朱异ナルモノアリ獨リカメ勸メテ之レヲ納ル東

魏慕容紹宗ヲ遣ハシテ景ヲ撃ツ景敗レテ南ニ走リ梁  
 ノ壽春ヲ襲ヒ之レニ據リ命ヲ梁ニ請フ梁就テ以テ南  
 豫州ノ牧ト爲ス既ニシテ東魏成ラギナ梁ニ求ム其意  
 景ヲ得ント欲ス景梁ノ東魏ニ通ズルヲ恨ミ遂ニ壽陽  
 ニ反ス兵ヲ引テ南ニ渡リ建康ヲ圍ム梁帝即位ヨリ以  
 來江左久ク無事惟タ佛法ヲ崇ンテ數々身ヲ佛寺ニ捨  
 ツ上下之レニ化ス景ノ臺城ニ逼ルニ及ヒ梁帝安臥シ  
 テ動カス歎シテ曰ク我レヨリ之レヲ得テ我レヨリ之  
 レヲ失フ亦タ復タ何ゾ恨ミント援兵至ル者景カ爲メ  
 ニ敗ラル梁主人ヲシテ景ト盟ヒ以テ大丞相ト爲ス臺

城圍ヲ受ルヲ五月ニシテ陷ル景入テ見ユ引テ三公ノ位ニ就ク梁帝神色變セス景ニ謂テ曰ク卿軍中ニアルヲ久シ乃チ勞スルナカラシカト景敢テ仰ギ視ズ汗ヲ流シテ對フル能ハズ景退テ人ニ謂テ曰ク吾レ常ニ鞅ニ跨リ陣ニ對シ矢石交々下ルモ遂ニ怖ル、心ナシ今蕭公ヲ見ル人ナシテ自ラ懼レシム豈ニ天威犯シ難キニアラズヤ吾レ復々此人ヲ見ルヲ欲セズト自ラ大都督中外諸軍錄尙書事ヲ加フ梁帝景ノ爲メニ制セラレ求ムル所多ク志ヲ遂クルヲ得ス飲膳モ亦々裁損セラレ憂憤シテ疾ヲ成シ遂ニ殂ス梁ノ大寶二年景自立シ

テ漢王ト稱シ梁帝ヲ廢シテ之ヲ弑シ豫章王棟ヲ立ツ已ニシテ位ヲ篡フ後チ陳霸先兵ヲ起シテ景ヲ討ス景篡位數月ニシテ敗レ吳ニ走リ海ニ入ラント欲ス其下ノ爲メニ斬ラル尸ヲ建康ニ送り首ヲ江陵ニ傳ヘ其ノ手足ヲ截リ北齊ニ送り屍ヲ市ニ暴ラス土民争フテ之ヲ食ヒ骨ヲ并セテ皆盡ク

長城煬公ノ奢侈

陳ノ後主長城煬公太子タル時ヨリ詹事江總ト長夜ノ飲ヲ爲ス位ニ即テ幾ハクナラズ臨春結綺望仙閣ヲ起ス高サ數十丈連延數十間皆沉檀ヲ以テ之レヲ爲ル金

玉珠翠之レカ飾ト爲ス珠簾寶帳服玩瑰麗近古未タアラズ其下ニ石ヲ積テ山ト爲シ水ヲ引テ池ト爲シ花卉ヲ雜植ス陳主ハ臨春閣ニ居リ貴妃張麗華ハ結綺ニ居リ龔孔ノ二貴嬪ハ望仙ニ居ル複道ヨリ往來ス江總宰輔ト爲リ政事ヲ親ラセズ日ニ孔範等ノ文士ト後庭ニ侍宴ス之レヲ狎客ト謂フ諸貴嬪ヲシテ客ト唱和セシム其曲玉樹後庭花等アリ君臣酣歌シ夕ヨリ旦ニ達ス内外連結シ宗戚縱橫貨賂公行ス孔範貴嬪ト結シテ兄弟ト爲ル範自ラ謂フ文武ノ才能舉朝及フ莫シト將帥微ク過失アレハ即チ兵權ヲ奪フ是レニ由テ文武解

體シテ以テ覆滅スルニ至ル

隋兵陳ヲ伐ツ

陳ノ後主長城煬公禎明二年隋晉王廣ヲ以テ元帥ト爲シ師ヲ帥ヒテ陳ヲ伐ツ楊素韓擒虎賀若弼道ヲ分ケテ出ツ高穎元帥ノ長史ト爲リ薛道衡ニ問フ江東克ツ可キカ對ヘテ曰ク之レニ克タン郭璞カ言ハク江東分レテ王タルト三百年ニシテ中國ト合セント此數將サニ周カラントス陳主隋ノ兵アルヲ聞キ近臣ニ謂テ曰ク王氣此ニアリ彼レ何ン爲ルモノソ孔範曰ク長江ハ天塹ナリ豈ニ能ク飛ヒ渡ランヤ臣毎ニ官ノ卑キヲ患フ

虜若シ江ヲ渡ラハ定メテ大尉公ト爲ラン陳主以テ然  
リト爲ス伎ヲ奏シ酒ヲ縱ニシ詩ヲ賦シ輟マズ賀若弼  
廣漢ヨリ江ヲ濟ル韓擒虎橫江ヨリ夜采石ヲ濟ル守者  
皆醉フ擒虎遂ニ新林ヨリ進ミ直チニ朱雀門ニ入ル陳  
主自ラ景陽ノ井中ニ投ス軍人并ヲ窺ヒ將サニ石ヲ下  
サントス乃チ叫フ繩ヲ以テ之レヲ引ク張麗華孔貴嬪  
ト同ク束子テ上ク俘ヘテ以テ歸ル

隋ノ治亂興亡

隋ノ高祖文帝周ヲ滅シ陳ヲ亡シ南北ヲ合セテ天下ヲ  
一統ス性嚴重ニシテ政事ニ勤ム令行ハレ禁止ム財ニ

尙ナリト雖凡功ヲ賞シテ吝ナラス百姓ヲ愛養シ農桑  
ヲ勸課ス徭ヲ輕クシ賦ヲ薄フス自ラ奉スル一儉薄ナ  
リ天下之レニ化ス禪リヲ受クルノ初メ民戸四百萬ニ  
滿タス末年ニハ八百萬ニ踰ユ然レ凡詐力ヲ以テ天下  
ヲ得テ猜忌苛察ニシテ讒言ヲ信受ス功臣故舊終始保  
全スル者ナシ煬帝立テ奢侈ヲ極メ營造巡遊虛歲無ク  
又タ大軍ヲ率非テ高麗ヲ征シ大ヒニ民力ヲ敝ラシ天  
下騷動シ百姓窮困シ相聚ツテ盜ヲ爲ス是ニ於テ竇建  
德ハ漳南ニ起リ楊玄感李密ハ黎陽ニ反ス而シテ唐公  
李淵ハ兵ヲ太原ニ起シ頻リニ諸郡ニ克テ長安ニ入り

恭帝ヲ立ツ煬帝江都ニ在リ遂ニ宇文化及ノ縊殺スル所トナル恭帝位ニ即テ半年ニシテ淵ニ禪ル是レヲ唐ノ高祖神堯帝ト爲ス隋高祖ヨリ是ニ至テ三世凡ソ三十七年ニシテ亡フ

・晋王廣文帝ヲ弑シ及ビ故太子勇ヲ殺ス

隋ノ高祖文皇帝太子勇ヲシテ政事ヲ參決セシム時ニ損益スル所アリ帝皆之ヲ納ル勇ノ性寬厚ナリ率意ニシテ情ニ任セ矯飾スル所ナシ帝ノ性節儉ナリ勇嘗テ蜀鎧ヲ飾ル帝見テ悅ビズ後チ冬至ニ遇ヒ百官皆勇ニ詣ル勇樂ヲ張り賀ヲ受ク是ヨリ恩寵始メテ衰フ勇内

寵多シ妃寵無クシテ疾ニ遇フテ死ス而シテ庶子多シ獨孤皇后深ク之ヲ惡ム煬帝晋王タルル之ヲ知リ彌々自ラ矯飾シ嫡ヲ奪フノ計リコトヲ爲ス后遂ニ帝ヲ贊ケテ勇ヲ廢シテ晉王廣ヲ立テ太子ト爲ス後チ帝不豫ナリ太子ヲ召シ入リテ殿中ニ居ラシム太子預ジメ帝ノ不諱後ノ事ヲ擬シ書ヲ爲リテ僕射楊素ニ問フ報ヲ得ル宮人誤テ帝ノ所ニ送ル帝覽テ大ヒニ恚ム帝ノ寵スル所ノ陳夫人ナルモノ出テ、衣ヲ更フ太子ノ逼ル所ト爲ル之ヲ拒キテ免ル、ヲ得タリ帝其神色ノ異アルヲ怪ミ故ヲ問フ夫人泣然トシテ曰ク太子無禮ナリ

ト帝恙リ牀ヲ抵ツテ曰ク蓄生何ゾ大事ヲ付スルニ足  
ラン獨孤我レヲ誤ルト將サニ故ノ太子勇ヲ召ントス  
廣之レヲ聞テ右庶子長衡ヲシテ入りテ疾ヒニ侍セシ  
メ因テ帝ヲ弑シ人ヲ遣リ勇ヲ縊殺ス

煬帝ノ奢侈

隋ノ煬帝位ニ即テ首トシテ洛陽ノ顯仁宮ヲ營ム江嶺  
ノ奇材異石ヲ發ス又々海内ノ嘉木異草珍禽奇獸ヲ求  
メテ以テ苑囿ニ實ツ又々濟渠ヲ開通シ長安ノ西苑ヨ  
リ穀洛ノ水ヲ引テ河ニ達シ河ヲ引テ汴ニ入レ汴ヲ引  
テ泗ニ入レ以テ淮ニ達ス又々民ヲ發シ邗溝ヲ開キテ

江ニ入レ旁ラニ御道ヲ築キ樹ユルニ柳ヲ以テス長安  
ヨリ江都ニ至ルマテ離宮ヲ置クテ四十餘所人ヲ遣リ  
江南ニ往キ龍舟及ヒ雜船數萬艘ヲ造リ以テ遊幸ノ用  
ニ備フ西苑ノ周リ二百里其ノ内ニ海ヲ爲ル周リ十餘  
里蓬萊方丈瀛州ノ諸山ヲ爲ル高サ百餘尺臺觀宮殿山  
上ニ羅絡ス海ノ北ニ渠アリ縈紆シテ海ニ注ク渠ニ綠  
テ十六院ヲ作ル門皆渠ニ臨ム華麗ヲ窮極ス宮樹凋落  
スレハ剪綵ヲ以テ花葉ヲ爲テ之ヲ綴ル沼内ニモ亦剪  
綵シテ荷芰菱芡ヲ爲ル色淪レバ則チ新シキ者ニ易フ  
好ンテ月夜ヲ以テ宮女數千騎ヲ從ヘテ西苑ニ遊ビ清



夜遊ノ曲ヲ作り馬上ニ之ヲ奏ス後又々永濟渠ヲ開キ  
沁水ヲ引キ南ノ方河ニ達ス北ノ方涿郡ニ通ス又汾陽  
宮ヲ營ム又々江南ノ河ヲ穿チ京口ヨリ餘杭ニ至ル八  
百里洛口倉ヲ葦ノ東南ノ原上ニ置ク城ノ周リ二十餘  
里三千窖ヲ穿ツ與洛倉ヲ洛陽ノ北ニ置ク城ノ周リ十  
里三百窖ヲ穿ツ窖皆八千石ヲ容ル帝或ハ洛陽ニ如キ  
或ハ江都ニ如キ或ハ北巡ノ榆林金河ニ至ル或ハ五原  
ニ如キ長城ヲ巡ル或ハ河右ヲ巡ル又々天下ノ鷹師ヲ  
徵ス至ル者萬餘人天下ノ散樂ヲ徵ス諸蕃來朝スレハ  
百戲ヲ端門ニ陳ス絲竹ヲ執ル者萬八千人月ヲ終ヘテ

而ノ罷ム費巨萬歲々以テ常ト爲ス

煬帝高麗ヲ征ス

隋ノ煬帝大業六年高麗王ヲ徵シ入朝セシム至ラズ明  
年帝詔シテ高麗ヲ討ツ天下ノ兵ヲ徵シ涿郡ニ會セシ  
ム河南淮南江南ニ勅シテ戎車五萬乘ヲ造ラシメ衣甲  
等ヲ供載ス河南河北ノ民夫ヲ發シ軍須ニ供ス江淮以  
南ノ民夫及ヒ船ヲ發シ以テ黎陽及ヒ洛口ノ諸倉米ヲ  
運フ舳艫千里往還スルモノ常ニ數十萬人晝夜絶ヘス  
死スルモノ塗ニ相枕ム天下騷動シ百姓窮困シ始メテ  
相聚リ盜ヲ爲ス明年四方ノ兵涿郡ニ集ルモノ一百一

十三萬餽運スルモノ之ニ倍ス首尾千餘里ニ亘ル帝自  
ラ將トシテ進テ遼東ニ至リ城ヲ攻ム克タス諸軍大ヒ  
ニ敗レテ還ル明年復タ兵ヲ徵シ涿郡ニ如キ高麗ヲ伐  
ツ高麗使ヲ遣ハシ降ヲ請フ帝長安ニ還ル

楊玄感及ヒ李密兵ヲ起ス

隋ノ煬帝大業九年楚公楊玄感兵ヲ黎陽ニ起ス玄感人  
ト爲リ驍勇ニシテ騎射ヲ善クシ好テ書ヲ讀ム天下知  
名ノ士多ク之レト遊ブ蒲山ノ李密ナルモノアリ少フ  
シテ才畧アリ志氣雄遠ニシテ財ヲ輕ンジ士ヲ好ム左  
親侍タリ帝之レヲ見テ宇文述ニ謂テ曰ク左仗下ノ黑

色小兒瞻視常ニ異レリ宿衛セシムル勿レト述乃チ密  
ニ諷シ病ト稱シ自ラ免セシム密遂ニ人事ヲ屏ケ務メ  
テ書ヲ讀ム嘗テ黃牛ニ乗ジ漢書ヲ讀ム楊素見テ之レ  
ヲ奇トシ與ニ語り大ニ悦ブ是ニ由リ素ノ子玄感ト深  
交ヲ爲ス遂ニ玄感ニ從ヒ兵ヲ引テ洛陽ニ向フ宇文述  
等之ヲ撃ツ玄感敗レテ死ス密姓名ヲ變ジ亡ケ匿ル時  
人皆云フ楊氏將ニ滅セントス李氏將ニ興ラントスト  
又タ民謠アリ歌フテ曰ク桃李子アリ皇后楊州ニ走リ  
花園ノ裏ニ宛轉ス浪リニ語ル莫レ誰カ道許フト桃李  
子ト謂フモノハ逃亡ノ李氏ノ子ナリ皇ト后トハ皆君

ナリ 花園ノ裏ニ宛轉ストハ天子楊州ニ在テ還ラス將  
ニ溝壑ニ轉セントスルヲ謂フナリ浪リニ語ル莫レ誰  
ガ道許フトハ密ニスルナリ密遂ニ群盜翟讓等ト起リ  
滎陽ヲ攻メテ之レヲ下ス牙ヲ建テ所部ヲ統テ西行シ  
説キテ諸城ヲ下シ大ニ獲タリ進ンデ興洛倉ニ據リ河  
南ノ諸部ヲ畧取シ魏公ト稱ス

唐ノ治亂興亡

唐ノ高祖神堯帝隋ニ代リテ天子ト爲リ秦王世民ノ謀  
ヲ用ヒ李密ヲ降シ建德ヲ擒ニシ世充ヲ斬リ武周ヲ芟  
リ黑闥ヲ剪リ蕭銑ヲ夷ラケ以テ亂畧ヲ掃除ス七年ニシ

テ僭偽皆亡ヒ海内咸ク服ス州縣郷ノ學ヲ置キ始メテ  
官制ヲ定ム新律令ヲ頒チ均田租庸調ノ法ヲ定ム武德  
九年玄武門ノ變アリ太宗嗣テ立ツ學士ヲ延キ學舍ヲ  
築キ王珪房杜等ノ賢臣ヲ用ヒ專ハラ文德ヲ以テ海内  
ヲ綏ンス貞觀四年穀大ニ稔ル米斗三四錢歳ヲ終ルマ  
テ死刑ヲ斷スルヲ纔ニ十九人外戸閉チス行旅糧ヲ齎  
ラサス天下大ニ治マル突厥ヲ擒ニシ延陀ヲ滅ホシ四  
夷入朝シ鎮勅諸部請フテ州郡ト爲ル蓋シ三代以降未  
タ之レ有ラサルナリ高宗立テ宴安ニ沈溺シ政武后ニ在  
ルヲ三十年后遂ニ中宗ヲ廢シ唐ノ宗室ヲ殺シ國ヲ周

ト號スルモノ十六年狄仁傑等唐室ニ忠スルヲ以テ中  
 宗位ニ復スルヲ得タリ中宗立テ韋公朝政ニ預ル后遂  
 ニ武三思及ヒ安樂公主ト謀リ帝ヲ毒弑ス相王ノ子隆  
 基兵ヲ起シテ亂ヲ討シ相王ヲ立ツ是レヲ睿宗ト爲ス  
 睿宗立テ宋璟姚元之政ヲ爲シ弊政ヲ革メ忠良ヲ進メ  
 賞罰公ヲ盡シ紀綱大ニ修マル當時翕然タリ玄宗立テ  
 姚崇宋璟韓休張九齡相繼テ相ト爲ル賦役ヲ平ラカニ  
 シ刑罰ヲ省キ百姓頗フル富ミ四夷賓服ス幾ント貞觀  
 ノ風アリ天寶以降ニ及ヒ漸ク奢欲ヲ生シ楊貴妃ヲ寵  
 シ李林甫ノ小人ヲ用ヒ以テ天下ノ亂ヲ養成ス安祿山

反シテ帝ト稱シ洛陽長安ヲ陷ル帝遂ニ蜀ニ奔ル肅宗  
 立テ郭子儀李光弼等相繼テ元帥ト爲リ兩京ヲ克復シ  
 頻リニ賊ヲ敗ル上皇乃チ還ル時ニ張皇后李輔國ト表  
 裡シ權ヲ專ラニシ事ヲ用ユ後チ隙アリ輔國遂ニ后ヲ  
 殺シテ代宗ヲ立ツ代宗立テ輔國ヲ誅シ凶賊ヲ平ラケ  
 河南北ヲシテ復タ唐ノ臣タラシム然レトモ朝廷方ニ  
 兵革ヲ厭ヒ無事ヲ冀フ盜賊ノ州郡ニ據ル者ハ因テ之  
 レヲ授ク將士ノ主帥ヲ殺ス者ハ因テ之レヲ鎮セシム  
 遂ヒニ藩鎮ノ強梗ヲ致ス德宗立テ精ヲ勵マシ治ヲ求  
 ム始メテ兩稅法ヲ作り雜徭ヲ省キ以テ民力ヲ息フ兩

河兵ヲ用ユルニ及ヒ府庫支ヘス富商ノ錢ヲ括シ諸道ノ稅ヲ増ス是ニ於テ民愁ヒ兵怨ム李季烈ノ襄城ニ寇スルヤ亂兵城ニ入ル帝出テ、奉天ニ奔ル朱泚僭號シテ帝ト稱ス李懷光ノ反スルヤ帝復タ梁州ニ奔ル李晟長安ヲ克復シ賊ヲ平ラク車駕長安ニ還ル後チ又々淮西ノ吳少誠反ス帝初政清明ナルモノニ歲廬杞用井ラレテヨリ叛亂相繼キ末年ハ姑息スルノミ順宗疾ヒニ罹リ位ニ在ルヲ久シカラス憲宗立テ四川ノ節度副使劉闢反ス夏州ノ留後楊惠琳朝命ヲ拒ム鎮海ノ節度使李錡反ス皆討テ之レヲ平ラク元和十二年裴度李愬等

ヲ遣ハシ吳少誠ヲ討ツ四歲ニシテ漸ク之レヲ平ラク准西已ニ平ラクキテヨリ帝浸々驕侈ナリ度支使皇甫鎛鹽鐵使程昇ヲ用ヒ頻リニ羨餘ヲ進ム帝遂ニ宦者陳弘志ノ爲メニ弑セラル穆宗立テ李逢吉等ヲ用ヒ自ラ顛覆ヲ招ク敬帝荒淫ニシテ嬖倖事ヲ用ユ宦者劉克明ノ爲メニ弑セラル文宗位ニ即クノ初メ精ヲ勵マシ治ヲ求ム奢ヲ去リ儉ニ從フ中外翕然トシテ太平冀フヘシト謂ヘリ然レモ宦官ニ制セラレ竟ニ爲ス有ル能ハス武宗ニ至リ牛李ノ怨ミ愈々深ク二黨相擠援シテ朝廷平カナラス帝英敏特達位ニ在ルヲ久シカラス功業未

々成ラスシテ薨ス宣宗立テ心ヲ民事ニ盡シ政事ニ勤  
 ム大中ノ政唐ノ亡ブルニ至ルマテ人之レヲ詠歌ス然  
 レモ内侍權ヲ專ラニシテ亦々去ルヲ能ハス懿宗暴虐  
 ニシテ奢侈ナリ百姓流殍シ所在相聚ツテ盜ヲ爲ス浙  
 東ノ賊裘甫起ル觀察使王式討テ之レヲ斬ル徐州ノ賊  
 龐勛起ル招討使康承訓討テ之レヲ平ラク僖宗幼ニシ  
 テ宦宦ノ爲メニ立テラレ日ニ宦宦ト相處ルノミ天下  
 大ニ亂レ盜賊蠡起ス豪傑因テ其間ニ起リ互ニ相吞噬  
 ス朝廷制スル能ハス濮州ノ王仙芝起ル曹州ノ黃巢之  
 レニ應ス頻リニ州縣ヲ陷レ長安ニ入ル帝蜀ニ出奔ス

巢僭號シテ帝ト稱ス李克用擊テ之レヲ平ラク帝乃チ  
 還ル昭宗亦々宦官ノ爲メニ立テラル英氣アリ文學ヲ  
 好ム頗ル前烈ヲ恢復スルノ志アリ然レモ内ハ宦官ニ  
 制セラレ外ハ強鎮アリ竟ニ初志ヲ遂クル能ハス漂泊  
 幽辱ニ遇ヒ遂ニ朱全忠ノ爲メニ弑セラル哀帝立テ四  
 年ナラスシテ位ヲ全忠ニ禪ル是レヲ梁ノ太祖ト爲ス  
 唐高祖ヨリ是ニ至テ二十世凡ソ二百九十年

唐公李淵兵ヲ起ス

隋ノ煬帝大業十二年天下所在盜起ル淵山西河東ノ撫  
 尉大使ト爲リ群盜ヲ討捕ス突厥邊ニ寇ス淵ニ詔シテ

之レヲ擊タシム突厥頗ル之レヲ憚カル淵四男アリ建  
成世民立覇元吉ト曰フ而テ次子世民聰明勇決ニシテ  
識量人ニ過キタリ隋室ノ方ニ亂ル、ヲ見テ陰カニ天  
下ヲ安ンスルノ志アリ晉陽ノ宮監裴寂晉陽ノ令劉文  
靜ト相結フ文靜世民ニ謂ツテ曰ク今主上南巡ス群盜  
萬數此ノ際ニ當リ眞主アリテ驅駕シテ之レヲ用ヒハ  
天下ヲ取ルコト掌ヲ反ヘスカ如キノミ太原ノ百姓收  
拾セハ十萬人ヲ得ヘシ尊公將ユル所ノ兵復タ數萬ア  
リ此レヲ以テ虐ニ乘シ關ニ入り天下ニ號令セハ半年  
ヲ過キス帝業成ラント世民笑ツテ曰ク君カ言正ニ我

カ意ニ合ヘリト乃チ陰カニ賓客ヲ部署ス而テ淵ハ之  
レヲ知ラサルナリ會々淵ノ兵突厥ヲ拒テ利アラズ罪  
ヲ獲ンコトヲ恐ル世民間ニ乘シ淵ニ説ク民心ニ順ヒ  
義兵ヲ興サハ禍ヲ轉シテ福ト爲サント淵大ニ驚テ曰  
ク汝安ソ此言ヲ爲スヲ得タルヤ吾レ今汝ヲ執ヘテ縣  
官ニ告ケント世民徐カニ曰ク世民天時人事ヲ觀ルニ  
此クノ如シ故ニ敢テ言ヲ發ス執ヘ告クルモ敢テ辭セ  
スト淵カ曰ク吾レ豈ニ告クルニ忍ヒンヤ汝慎テ口ヨ  
リ出スコト勿レト明日世民復タ説テ曰ク人皆傳フ李  
氏當ニ圖讖ニ應スヘシト故ニ李金才ハ故ナクシテ族

滅セラル大人能ク賊ヲ盡サハ則チ功高クシテ賞セラ  
レズ身益々危フカラシク惟タ昨日ノ言以テ禍ヲ救フ可  
シ此レ萬全ノ策ナリ願クハ疑フ勿レト淵歎シテ曰ク  
吾レ一夕汝カ言ヲ思フニ亦タ大ニ理アリ今日家ヲ破  
リ身ヲ亡スモ亦タ汝ニ由ラン家ヲ化シ國ト爲ルモ亦  
タ汝ニ由ラント是レヨリ先キ裴寂私カニ晋陽ノ官人  
ヲ以テ淵ニ侍セシム淵寂ニ從フテ飲ス酒酣ナルトキ  
寂曰ク二郎陰カニ士馬ヲ養ヒ大事ヲ舉ケント欲ス正  
ニ寂官人ヲ以テ公ニ侍セシム事覺レハ併セ誅セラレ  
ンコトヲ恐ルト會々煬帝淵カ寇ヲ禦ク能ハサルヲ以

テ使者ヲシテ淵ヲ執ヘシム世民寂等ト復タ説テ曰ク  
事已ニ迫ル宜シク早ク計ヲ定ムヘシ且ツ晋陽ハ士馬  
精強ナリ官監ノ蓄積巨萬且ツ代王幼冲ナリ關中ノ豪  
傑並ヒ起ル公若シ鼓行シテ西シ撫シテ之レヲ有セハ  
囊中ノ物ヲ探ルカ如シト淵乃チ召募シテ兵ヲ起ス遠  
近赴キ集ル仍テ使ヲ遣リ兵ヲ突厥ニ借ル世民兵ヲ引  
テ西河ヲ撃チ之レヲ拔ク郡丞高德儒ヲ斬リ之ヲ數メ  
テ曰ク汝野鳥ヲ指シテ鸞ト爲シ以テ人主ヲ欺ク吾レ  
義兵ヲ起スハ正ニ佞人ヲ誅スルカ爲メノミト兵ヲ進  
メテ霍邑ヲ取り臨汾絳郡ニ克チ韓城ヲ下シ馮翊ヲ降



ス淵兵ヲ留メテ河東ヲ圍ミ自ラ兵ヲ引テ西ス世子建  
成ヲシテ潼關ヲ守ラシメ世民ヲシテ渭北ヲ徇ヘシム  
關中ノ群盜悉ク淵ニ降ル諸軍ヲ合セテ長安ヲ圍ミ之  
レニ克チ代王ヲ立ツ是レヲ恭帝トス淵大丞相ト爲リ  
唐王ニ封セラレ九錫ヲ加フ尋テ皇帝ノ位ニ即ク建成  
ヲ立テ皇太子ト爲シ世民ヲ秦王ト爲シ元吉ヲ齊王ト  
爲ス

均田租庸調ノ法ヲ定ム

唐ノ高祖武德五年初メテ均田租庸調ノ法ヲ定ム丁中  
ノ民ニ田一頃ヲ給ス篤疾ノモノハ十ノ六ヲ減ス寡妻

妾ハ七ヲ減ス皆什ノ二ヲ以テ世業ト爲ス八ナ口分ト  
爲ス丁毎ニ歳ニ租粟二石ヲ入ル調ハ土地ノ宜シキ所  
ニ隨フテ綾絹絁布歳ニ役スル丁二旬役セサレハ其備  
ヲ收ムル日ニ三尺事アリテ役ヲ加フル丁旬有五日ナ  
レハ其調ヲ免ス三旬ナレハ租調俱ニ免ス水旱蟲霜ア  
リテ十ニ四以上ヲ損スレハ租ヲ免ス六以上ヲ損スレ  
ハ調ヲ免ス七以上ヲ損スレハ課役俱ニ免ス民ノ贖業  
ヲ九等ニ分ツ百戸ヲ里ト爲ス五里ヲ郷ト爲ス四家ヲ  
隣ト爲ス四隣ヲ保ト爲ス城邑ニ在ルモノヲ坊ト爲ス  
田野ハ村ト爲ス祿ヲ食ムノ家ハ民ト利ヲ争フヲ得ル

ナシ工商雜類ハ士伍ニ預ルナシ男女始メテ生マル、  
ヲ黃ト爲ス四歳ヲ小ト爲ス十六ヲ中ト爲ス二十ヲ丁  
ト爲ス六十ヲ老ト爲ス歳コトニ計帳ヲ造リ三歳コト  
ニ戸籍ヲ爲ル

玄武門ノ變

唐ノ晋陽ヨリ起リテ天下ヲ得ルヤ皆世民ノ謀ニ出ヅ  
高祖世民ヲ以テ儲嗣ト爲サント欲ス世民固辭シテ止  
ム太子建成酒色遊畋ヲ喜ム齊王元吉過失多シ而テ世  
民ハ功名日ニ盛ンナリ建成乃チ元吉ト謀リ世民ヲ傾  
ケントス意ヲ曲ケテ諸妃嬪ニ諂ヒ事フ世民獨リ之レ

ヲ事トセス左右皆建成元吉ヲ譽メテ世民ヲ短ル建成  
一日世民ヲ召シ酒ヲ飲マシメ之レニ酖ス世民血ヲ吐  
クコト數升高祖世民ニ謂ツテ曰ク吾レ汝ノ兄弟ヲ觀  
ルニ相容レサルニ似タリ與ニ處ルヘカラスト武德九  
年建成元吉世民ヲ殺サント欲ス秦王府ノ僚屬房玄齡  
杜如晦長孫無忌等王ニ勸メテ周公ノ事ヲ行ヘト力メ  
請フ世民歎シテ曰ク骨肉相賊フ古今ノ大惡吾レ誠ニ  
禍ノ朝夕ニ在ルヲ知ル其發スルヲ俟タントスト僚屬  
曰ク大王舜ヲ以テ何如ント爲ス世民曰ク聖人ナリ衆  
曰ク舜ヲシテ井ヲ浚ヘテ出テス廩ヲ塗リテ下ラサラ

シメハ井中ノ泥廩上ノ灰ノミ安ソ能ク後世ニ施サ  
ンヤト世民意口乃チ決ス是ニ於テ密カニ奏ス兄弟專  
ハラ臣ヲ殺サント欲ス世充建德カ爲メニ讐ヲ報ルニ  
似タリト明日兵ヲ帥ヒテ玄武門ニ伏ス建成元吉入ル  
變アルヲ覺リ還ラント欲ス世民追フテ建成ヲ射テ之  
レヲ殺ス尉遲敬德元吉ヲ射殺ス遂ニ世民ヲ立テ、太  
子ト爲ス軍國ノ事悉ク太子ニ委テテ處決セシメ然ル  
後チ聞奏ス初メ東宮ノ官屬魏徵數々建成ニ勸メテ世  
民ヲ除カントス是ニ及ヒ世民徵ヲ召シ責ムルニ兄弟  
ヲ離間スルヲ以テス徵舉止自若トシテ對ヘテ屈セス

世民之レヲ禮ス王珪モ亦々嘗テ建成カ爲メニ謀ル世  
民間ハス皆以テ諫議太夫ト爲ス

登瀛ノ學士

秦王世民府ヲ開キ僚屬ヲ置キ館ヲ開キテ以テ文學ノ  
士ヲ延ク杜如晦房玄齡虞世南褚亮姚志廉李玄道蔡允  
恭薛元敬顏相時蘇勛于志寧蘇世長薛收李守素陸德明  
孔穎達蓋文達許敬宗文學館ノ學士タリ分ツテ三番ト  
ナシ日ヲ更ヘテ直宿ス秦王暇日ニハ輒チ館中ニ至リ  
テ文籍ヲ討論ス或ハ夜分ニ至ル閣立本ヲシテ像ヲ圖  
セシメ褚亮贊ヲ爲ル是レヲ十八學士ト號ス士大夫ノ

其選ニ預ルヲ得ルモノハ時人之レヲ登瀛州ト謂フ

房玄齡杜如晦ヲ薦ム

唐ノ高祖武德三年秦王府ノ僚屬多ク外官ニ補セラレ  
杜如晦モ亦タ出テ、陝州ノ長史タリ玄齡秦王ニ言テ  
曰ク餘人ハ惜ムニ足ラス如晦ハ王佐ノ才ナリ大王四  
方ヲ經營セント欲セハ如晦ニアラサレハ不可ナリト  
秦王驚キ曰ク公ノ言微リセハ幾ント之レヲ失フト即  
チ奏シテ之レヲ留メ帷幄ニ參謀タラシム軍中事多シ  
而シテ如晦之レヲ剖決スル流ル、如シ秦王敵城ニ克  
ツ毎ニ諸將爭フテ寶貨ヲ取ル玄齡獨リ人物ヲ收采シ

テ之レヲ幕府ニ致ス入りテ事ヲ奏セシムル毎ニ高祖  
曰ク玄齡吾ガ兒ノ爲メニ事ヲ陳スル千里ヲ隔ツルト  
雖モ皆面ニ對シテ語ルカ如シト

長孫皇后ノ賢

唐ノ太宗位ニ即キ首トシテ宮女三千餘人ヲ放ツ又タ  
妃長孫氏ヲ立テ皇后ト爲ス后少フシテ讀書ヲ好ミ造  
次モ必ス禮法ニ循フ帝秦王タルモ后高祖ニ奉事シ其  
ノ妃嬪ニ承順シ甚タ内助アリ后タルニ及ヒ務メテ節  
儉ヲ崇ヒ服御僅カニ給ヲ取ルノミ太子ノ乳母東宮ノ  
器用少キヲ以テ之レヲ益ント請フ后許サスシテ曰ク

太子ハ徳ノ立タサルト名ノ揚ラサルヲ患フルノミ何  
 ソ器用ナキヲ患ヘンヤト帝嘗テ后ト賞罰ヲ議ス后辭  
 シテ曰ク牝鷄ノ畏スル惟レ家之レ索クト妾ハ婦人安  
 シテ敢テ政事ニ預ランヤト帝固ク之レヲ問フ終ニ對  
 ルアラス帝嘗テ朝ヲ罷メ怒リテ曰ク必ラス此ノ田舎  
 翁ヲ殺スヘシト后誰タルヲ問フ帝曰ク魏徵每ニ我ヲ  
 延辱ス后退テ朝服ヲ具ヘ曰ク妾聞ク主明カナレハ臣  
 直シト今魏徵ノ直キハ陛下ノ明カナルニ由ルナリト  
 帝乃チ悅フ后ノ疾ヒニ遇フヤ太子奏シテ罪人ヲ赦シ  
 人ヲ度セント請フ后曰ク死生命アリ且ツ赦ハ國ノ大

事數々下スヘカラス釋ハ異端ノ教ナリ國ヲ蠹シ民ヲ  
 病ス皆上ノ爲サ、ル所奈何ソ吾一婦人ヲ以テ之ヲ爲  
 スヲ得ンヤト其疾ヒ篤キニ及ヒ帝ニ訣シテ曰ク妾ノ  
 宗ノ祿位ヲ致ス既ニ德望ニアラス慎ンテ權要ニ處ク  
 ナカレ妾生キテ人ニ益ナシ丘壠ヲ以テ天下ヲ勞費ス  
 ルナク但山ニ因リ墳ヲ爲リ瓦木ヲ用ヒテ可ナリト后  
 嘗テ古ヨリノ婦人ノ得失ヲ采リ女則三十卷ヲ爲ル天  
 下之レヲ範トス

突厥盟ヲ請フ

唐ノ太宗貞觀元年突厥ノ頡利突利ノ二可汗兵十萬騎

ヲ合セ涇州ニ寇ス頡利進ミテ渭水ノ便橋ノ北ニ至ル其腹心執矢思力ヲ遣シ入り見ヘシメ以テ虛實ヲ伺フ思力盛ンニ二可汗ノ兵百萬ニ將トシ今ニ至ルヲ稱ス帝其盟ニ背キ入り寇スルヲ讓ム先ツ思力ヲ斬ラント欲ス思力懼ル乃チ之レヲ囚フ帝乃チ自ラ房玄齡等六騎ト徑チニ渭水ノ上リニ詣リ頡利ト水ヲ隔テ、語リ責ムルニ約ニ背クヲ以テス突厥大ニ驚キ皆馬ヲ下リ羅拜ス俄カニシテ諸軍繼テ至ル旌甲野ヲ蔽フ頡利思力ノ返ラス而テ帝ノ輕出シテ軍容甚々盛ナルヲ見テ懼ル、色アリ遂ニ盟ヲ請フテ退ク

弘文館ヲ置ク

唐ノ太宗貞觀元年弘文殿ニ於テ四庫ノ書二十餘萬卷ヲ聚メ弘文館ヲ殿側ニ置キ天下文學ノ士ヲ選フ虞世南褚亮姚思廉歐陽詢等本官ヲ以テ學士ヲ兼ヌ日ヲ更ヘテ宿直セシム朝ヲ聽クノ隙内殿ニ引キ入レ前言往行ヲ講論シ政事ヲ商權ス或ハ夜分ニ至リ乃ハ子罷ム又タ三品以上ノ子孫ヲ取リテ弘文館ノ學生ニ充ツ

太宗治道ヲ論ス

唐ノ太宗位ニ即ク裴寂ニ謂ツテ曰ク比口上書シテ事ヲ言フモノ多シ朕皆之レヲ屋壁ニ黏シテ出入毎ニ省

覽シテ數々治道ヲ思ヒ夜深クシテ方サニ寢ヌ公ノ輩  
 モ亦々當ニ職事ヲ勤ムヘシト時ニ上書シテ佞臣ヲ去  
 ラント請フモノアリ帝問フ佞臣ハ誰レト爲スト答ヘ  
 テ曰ク願クハ陛下羣臣ト言ヒ或ハ陽ニ怒テ以テ之レ  
 ナ試ミヨ彼ノ理ヲ執リテ屈セサルモノハ直臣ナリ威  
 ナ畏レ旨ニ順フモノハ佞臣ナリト帝曰ク君ハ源ナリ  
 臣ハ流ナリ其源ヲ濁シテ而テ其流レノ清ムヲ求ムル  
 モ得ヘカラス吾レ自カラ詐ヲ爲サハ何ヲ以テ臣下ノ  
 直ヲ責ンヤ朕方ニ至誠ヲ以テ天下ヲ治メン前世帝王  
 好ミテ權譎小數ヲ以テ臣下ニ接スルヲ見ハ常ニ竊カ

ニ之レヲ耻ツ卿ハ策善シト雖モ朕取ラサルナリト又  
 タ羣臣或ハ法ヲ重クシテ以テ盜ヲ禁セント請フモノ  
 アリ帝曰ク朕當サニ奢ヲ去テ費ヲ省キ徭ヲ輕クシ賦  
 ナ薄クシ廉吏ヲ選用シテ民ヲシテ衣食餘リアラシム  
 ヘシ民自カラ盜ヲ爲サス安ソ重法ヲ用非ント又々  
 嘗テ羣臣ニ謂テ曰ク君ハ國ニ依リ國ハ民ニ依ル民ヲ  
 刻シテ以テ君ニ奉スルハ猶ホ肉ヲ割キテ以テ腹ニ充  
 タスカ如シ腹飽クモ身斃ル君富ムモ國亡フ又々嘗テ  
 公卿ニ謂フテ曰ク昔シ禹山ヲ鑿チ水ヲ治ム而テ民謗  
 讟スルナキモノハ人ト利ヲ同クスレハナリ秦皇ハ宮

室ヲ營ミ而テ民怨叛スルモノハ人ヲ病マシメ已レテ  
 利スレハナリ朕一殿ヲ營ント欲シ材用已ニ具ハル秦  
 ナ鑿ミテ而メ止メリ王公以下宜シク此意ヲ體スヘシ  
 ト又タ侍臣ニ謂ツテ曰ク吾聞ク西域ノ賈胡ハ美珠ヲ  
 得レハ身ヲ割キテ之レヲ藏ムト之レアリヤ侍臣曰ク  
 之レアリ曰ク吏ノ賂ヲ受ケテ法ニ抵ルト帝王ノ奢欲  
 ニ徇フテ國ヲ亡スモノト何ヲ以テカ此ノ胡ノ笑フヘ  
 キニ異ナランヤト魏徵曰ク昔シ魯ノ哀公孔子ニ謂テ  
 曰ク人好ク忘ル、モノアリ宅ヲ徙シテ其ノ妻ヲ忘ル  
 孔子曰ク又タ甚シキモノアリ桀紂ハ乃チ其身ヲ忘ル

ト亦タ猶ホ是クノ如キナリ帝曰ク宜シク公等ト相輔  
 ケ人ノ笑ヒヲ免ルヘシト

裴矩ノ力爭

唐ノ太宗貞觀元年諸吏ノ多ク賂ヲ受クルヲ患ヒ密カ  
 ニ左右ヲシテ試ミニ之レニ賂ハシム司門ノ令吏アリ  
 絹一匹ヲ受ク帝之レヲ殺サント欲ス民部尙書裴矩諫  
 メテ曰ク吏ト爲リ賂ヲ受ク罪誠ニ死ニ當ス但タ陛下  
 人ヲシテ之レヲ遣ハシ而テ受ケシム乃チ人ヲ法ニ陷  
 ル、ナリ恐ラクハ之レヲ道クニ德ヲ以テシ之レヲ齊  
 フルニ禮ヲ以テスルノ意ニアラサルナリト帝悅ヒ羣



臣ニ告テ曰ク裴矩能ク官ニ當リ力爭シ面從ヲ爲サス  
儻シ事毎ニ皆然ラハ何ソ治ラサルヲ憂ンヤト

張玄素臣ヲ擇フヲ請フ

唐ノ太宗位ニ即キ景州ノ錄事參軍張玄素ノ名ヲ聞キ  
召シ見テ政道ヲ問フ對ヘテ曰ク隋主自ラ庶務ヲ專ラ  
ニシ羣臣ニ任セス一人ノ智ヲ以テ天下ノ務ヲ決ス假  
令ヒ得失相半ハスルモ乖謬已ニ多ク下諛ヒ上蔽ハレ  
亡ヒスシテ何ヲカ待タン陛下誠ニ能ク群臣ヲ擇ヒ而  
テ任ヲ分ツテ之レヲ命シ其成敗ヲ考セハ何ソ治マ  
ラサルヲ憂ント太宗擢テ以テ侍御史ト爲ス

張蘊古大賢ノ箴ヲ獻ス

唐ノ太宗位ニ即ク張蘊古ナルモノアリ大賢ノ箴ヲ獻  
ス曰ク一人ヲ以テ天下ヲ治ム天下ヲ以テ一人ニ奉ス  
ルニアラサルナリ又タ曰ク九重ヲ内ニ壯ニスレモ  
居ル所ハ膝ヲ容ル、ニ過キス彼ノ昏ニシテ知ラサル  
モノハ其臺ヲ瑤ニシテ其室ヲ璣ニス八珍ヲ前ニ羅ヌ  
レモ食スル所ハ口ニ適フルニ過キス惟レ狂ニシテ念  
フ罔キモノハ其糟ヲ丘ニシテ其ノ酒ヲ池ニス又タ曰  
ク沒々トシテ闇キヲ勿レ察々トシテ明カナルヲ勿レ  
冕旒目ヲ蔽フト雖モ無形ニ視ヨ黠纒耳ヲ塞クト雖モ

無聲ニ聽ケト帝其ノ言ヲ嘉セリ

戴胄ノ執法

唐ノ太宗貞觀元年戴胄大理少卿タリ時ニ帝選人ノ詐  
冒資蔭多キヲ以テ敕シテ自首セシム自首セサルモノ  
ハ死セント未タ幾ハクナラスシテ詐冒ノモノアリ帝  
之レヲ殺サント欲ス胄奏ス法當サニ流スヘシト帝怒  
テ曰ク卿法ヲ守ラント欲シ朕ヲシテ信ヲ失ハシムル  
カ對ヘテ曰ク敕ハ一時ノ喜怒ニ出ツ法ハ國家ノ大信  
ヲ天下ニ布ク所以ナリ陛下選人ノ詐リノ多キヲ忿リ  
之レヲ殺サント欲ス既ニシテ其ノ不可ヲ知り復タ斷

スルニ法ヲ以テス此レ乃チ小忿ヲ忍ヒテ大信ヲ存ス  
ルナリト帝曰ク卿能ク法ヲ執ル朕復タ何ヲ憂ヘンヤ  
ト胄前後顔ヲ犯シテ法ヲ執リ以テ言フ帝皆之レニ從  
フ天下冤獄ナシ

太宗中書門下ヲ諭ス

唐ノ太宗貞觀六年王珪ヲ以テ侍中ト爲ス故事ニ軍國  
ノ大事ハ中書舍人各々所見ヲ執リテ其名ヲ雜署ス之  
レヲ五花判事ト謂フ中書侍郎中書令之レヲ省審ス給  
事中黃門侍郎之ヲ駁正ス是ニ至リテ帝珪ニ謂テ曰ク  
國家本ト中書ト門下トヲ置キ以テ相檢察ス正ニ人心

見ル所互ヒニ同シカラサルヲ以テナリ苟モ論難往來  
務メテ至當ヲ求メ己レヲ捨テ人ニ從フ亦タ復タ何ソ  
傷マン比來或ハ己レノ短ヲ護シ遂ニ怨隙ヲ成シ或ハ  
私怨ヲ避ケ非ヲ知ルモ正サス一人ノ顔情ニ順ヒ兆民  
ノ深怨ヲ爲ス此レ乃チ亡國ノ政煬帝ノ世是レナリ卿  
等各々當ニ公ニ徇ヒ私ヲ忘ルベシ雷同スル勿レト後  
又タ侍臣ニ謂テ曰ク中書ト門下トハ機要ノ司ナリ詔  
敕ノ不便ナルモノアル皆論執スヘシ比口惟タ順從ヲ  
睹テ違異ヲ聞カス但タ文書ヲ行フノミナレハ誰レカ  
爲スヘカラサラン何ソ必スオヲ擇ハンヤト玄齡等皆

頓首シテ謝ス

魏徵忠良ノ辨

唐ノ太宗貞觀二年或人魏徵ノ其ノ親戚ニ私スルト告  
クルアリ帝御史太夫温彦博ヲシテ之レヲ按セシム狀  
ナシ帝徵ノ嫌疑ヲ避ケサルヲ以テ之レヲ讓メテ曰ク  
自今宜シク形迹ヲ存スヘシト徵曰ク君臣同躰宜シク  
相共ニ誠ヲ盡スヘシ若シ但タ形迹ヲ存セハ國ノ興喪  
未タ知ルヘカラサルナリ臣敢テ詔ヲ奉セスト帝曰ク  
吾レ已ニ之レヲ悟レリト徵再拜シテ曰ク臣幸ヒニ奉  
事スルヲ得ハ願クハ臣ヲシテ良臣タラシメヨ忠臣タ

ラシムル勿レト帝曰ク忠良異ナルアルカ對テ曰ク稷契皐陶ハ君臣心ヲ協セテ俱ニ尊榮ヲ享ク所謂良臣ナリ龍逢比干ハ面折廷爭シ身誅セラレ國亡フ所謂忠臣ナリト

李靖突厥ヲ破ル

初メ突厥既ニ強シ敕勒ノ諸部皆分散ス薛延陀回紇等ノ十五部アリ皆磧北ニ居ル頡利政亂ル薛延陀回紇等之レニ叛ク加フルニ民大ニ飢ヘ羊馬多ク死ス唐ノ太宗ノ時奉使ノモノ還リ及ヒ邊帥皆突厥取ルヘキノ狀ヲ言フ貞觀四年李靖ヲ以テ定襄道ノ行軍總管トナシ

諸軍ヲ統テ之レヲ討ス靖突厥ヲ陰山ニ襲ヒ之レヲ破ル頡利可汗遁レ走ル唐ノ將之レヲ擒ニシ以テ獻ス時ニ突利可汗先キニ己ニ入朝ス帝突厥カ降衆ヲ處キ東ハ幽州ヨリ西ハ靈州ニ至ル突利ノ地ヲ分テ四州ト爲ス頡利ノ地ヲ分テ六州ト爲ス左ニ定襄都督ヲ置キ右ニ雲中都督ヲ置キ以テ其衆ヲ統フ突利ヲ以テ順州都督ト爲シ頡利ヲ右衛大將軍ト爲ス

魏徵仁義ヲ行フヲ勸ム

唐ノ太宗即位ノ初メ嘗テ群臣ト語リテ教化ニ及フ曰ク大亂ノ後其レ治メ難キカ魏徵對ヘテ曰ク饑スル者

ハ食ヲ爲シ易ク渴スル者ハ飲ヲ爲シ易シ封德彝曰ク  
 三代ヨリ以還人漸ク澆訛ナリ故ニ秦ハ法律ニ任シ漢  
 ハ霸道ヲ雜ユ蓋シ化セント欲スレト能ハサルナリ豈  
 ニ之レヲ能クスレト而モ欲セサランヤ徵曰ク五帝三  
 王ハ民ヲ易ヘスシテ化ス湯武皆大亂ノ後ニ乘シ身太  
 平ヲ致ス帝道ヲ行フテ帝タリ王道ヲ行フテ王タリ行  
 フ所ノ何如シテ顧ミルノミト帝卒ニ徵ノ言ニ從フ元  
 年關中饑ユ斗米絹一匹ニ直ル二年天下蝗アリ三年大  
 水アリ帝勤メテ之レヲ撫ス未タ嘗テ嗟怨セス貞觀四  
 年ニ至テ天下大ニ稔ル米斗三四錢歳ヲ終ルマテ死刑

ヲ斷スルヲ纔ニ十九人東ノ方海ニ至リ南ノ方五嶺ニ  
 及フマテ皆外戸閉チス行旅糧ヲ齎ラサス給テ道路ニ  
 取ル帝曰ク魏徵我レニ勸メテ仁義ヲ行ハシム今既ニ  
 效アリ惜ムラクハ封德彝ヲメ之レヲ見セシメサル  
 ナ蓋シ德彝ハ元年ノ六月ニ死ス

太宗ノ二喜一懼

唐ノ太宗嘗テ侍臣ニ謂テ曰ク朕ニ二喜一懼アリ比年  
 豐稔斗粟三錢ナル一ノ喜ナリ北虜久ク服シ邊鄙虞ナ  
 キ二ノ喜ナリ治安ナレハ則チ驕侈生シ易ク驕侈ナレ  
 ハ危亡ノ禍立ロニ至ル此レ一ノ懼ナリト又嘗テ曰

ク人主ハ惟一心之レヲ攻ムルモノ衆シ或ハ勇力ヲ以テシ或ハ辯口ヲ以テシ或ハ詔諛ヲ以テシ或ハ姦詐ヲ以テシ或ハ嗜欲ヲ以テシ幅湊シテ各々自ラ售ルヲ求ム人主少シク懈リテ其一ヲ受クレハ危亡之レニ隨ハシ此レ人主タルノ難キ所以ナリト

太宗死囚ヲ縱ツ

唐ノ太宗貞觀七年死囚三百九十人ヲ赦ス是レヨリ先キ太宗親ラ繫囚ヲ錄シ死ニ當スルモノヲ見テ之ヲ憫ミ縱シテ家ニ歸ラシム期スルニ來秋ヲ以テ來リテ死ニ就クヲ以テス仍テ天下ノ死囚ニ赦シ皆縱チ遣リ期

ニ至リ來リテ京師ニ詣ラシム是ニ至リテ皆期ノ如ク自ラ朝堂ニ詣ル帝皆之レヲ赦ス

太宗未央宮ニ置酒ス

唐ノ太宗貞觀七年上皇ヲ奉シ故ノ漢ノ未央宮ニ置酒ス上皇突厥頡利可汗ニ命シテ起テ舞ハシム又タ南蠻酋長馮智戴ニ命シ詩ヲ詠セシム既ニシテ笑フテ曰ク胡越ノ一家古ヨリ未タ有ラサルナリト帝觴ヲ奉シ壽ヲ上ツリ曰ク今四夷入テ臣タリ皆陛下ノ教誨ナリ臣ノ智力ノ及フ所ニ非ス昔シ漢ノ高祖モ亦タ太上皇ニ從ヒ此ノ宮ニ置酒シ妄リニ自ラ矜大ニセリ臣ノ取ラ

サル所ナリト上皇大ニ悦フ殿上皆萬歳ト呼フ

太宗蕭瑀ニ詩ヲ賜フ

唐ノ太宗貞觀九年蕭瑀ヲ以テ特進ト爲シ政事ニ參預  
セシム瑀玄武門ノ事アルニ當リ高祖ニ謂テ曰ク建成  
元吉本ト義謀ニ豫ラス又々天下ニ功ナシ秦王ノ功高  
ク望重キヲ疾ミ共ニ奸謀ヲ爲ス今秦王已ニ討シテ之  
レヲ誅ス陛下若シ處クニ元良ヲ以テシ之レニ國務ヲ  
委セハ復々事ヲカラント高祖曰ク此レ吾カ夙心ナリ  
ト遂ニ秦王ヲ立テ皇太子ト爲ス是ニ至リテ太宗曰ク  
武德ノ季年高祖廢立ノ心アリ而テ未々定ラス我レ兄

弟ノ爲メニ容レラレス實ニ功高クシテ賞セラレサル  
ノ懼レアリ斯ノ人ヤ利ヲ以テ誘フ可カラス死ヲ以テ  
脅スヘカラス眞ノ社稷ノ臣ナリト因テ瑀ニ詩ヲ賜フ  
テ曰ク疾風勁草ヲ知り板蕩誠臣ヲ識ルト

太宗權萬紀ヲ黜ク

唐ノ太宗貞觀十年治書侍御史權萬紀上言ス宜饒ノ二  
州銀大ニ發ス之レヲ采ラハ歳ニ數百萬緡ヲ得ヘシト  
帝曰ク朕貴ク天子タリ乏シキ所ノモノハ財ニアラサ  
ルナリ但々嘉言ノ以テ百姓ヲ利スヘキ無キヲ恨ムノ  
ミ其數百萬緡ヲ得ルヨリハ何ソ一賢才ヲ得ルニ如カ

ン卿未タ嘗テ一賢オヲ進メス而テ專ラ銀ノ利ヲ言フ  
昔シ堯舜ハ璧ヲ山ニ抵チ珠ヲ谷ニ投ス漢ノ桓靈ハ乃  
チ錢ヲ聚メ私藏ト爲ス卿桓靈ヲ以テ我レヲ俟タント  
欲スルカト之レヲ黜ク

太宗府兵ヲ定ム

唐ノ太宗貞觀十年府兵ヲ定ム凡ソ十道ニ府ヲ置ク六  
百三十四而テ關内ハ二百六十一皆諸衛及ヒ東宮六率  
ニ隸ス上府ノ兵ハ凡テ千二百人中府ハ千人下府ハ八  
百人三百人ヲ團トナス團ニ校尉アリ五十人ヲ隊ト爲  
ス隊ニ正アリ十人ヲ火ト爲ス火ニ長アリ人毎ニ兵甲

糧裝各々數アリ之レヲ庫ニ輸ス征行ニハ之レヲ給ス  
二十ニシテ兵ト爲ル六十ニシテ免ル能ク騎射スルモ  
ノヲ越騎ト爲ス其餘ハ歩兵ト爲ス更ニ統軍別將ヲ命  
シテ折衝都尉ト爲ス歲ノ季冬毎ニ折衝都尉帥ヒテ以  
テ戰ヲ教ユ馬ヲ給スヘキ者ハ官直ヲ與フ宿衛スヘキ  
者ハ番上ス兵部遠近ヲ以テ番ヲ給ス遠キハ疎ニス近  
キハ數々ス皆一月ニシテ更ハル

太宗國子監ニ詣リ釋奠ス

唐ノ太宗貞觀十四年國子監ニ詣リ親ラ釋奠ス是ノ時  
大ニ天下ノ名儒ヲ徵シテ學官ト爲シ數々國子監ニ幸



シ之レヲシテ講論セシム學生能ク一經以上ニ明カナ  
 ルモノハ皆官ニ補セララル、ヲ得ル學舎ヲ増築スル  
 千二百間學生ヲ増シ三千二百六十員ニ滿ツ屯營飛騎  
 ニモ亦博士ヲ給シ經ヲ授ク能ク通スルモノアレハ貢  
 舉ヲ得ルヲ聽ス是ニ於テ四方ノ學者京師ニ雲集ス乃  
 チ高麗百濟新羅高昌吐蕃ノ諸酋長ニ至ルマテ亦々皆  
 子弟ヲ遣ハシ國學ニ入ラシム講筵ニ升ルモノ八千餘  
 人ニ至ル帝師說ノ多門ニシテ章句繁雜ナルヲ以テ孔  
 穎達ニ命シテ諸儒ト五經ノ疏ヲ定メシム之レヲ正義  
 ト謂フ

太宗太子承乾ヲ廢ス

唐ノ太宗貞觀十七年太子承乾廢セラレ庶人ト爲ル初  
 メ太子承乾聲色耽獵ヲ好ミ爲ス所奢靡多シ魏王泰ハ  
 多能ニシテ寵アリ潛カニ嫡ヲ奪フノ志アリ節ヲ折リ  
 士ニ下リ以テ聲譽ヲ求ム太子其ノ逼ルヲ畏レ陰カニ  
 刺客ヲ養ヒ之レヲ殺サンヲ謀ル時ニ吏部尙書侯君集  
 ナルモノ高昌ヲ破リ私ニ其珍寶ヲ取り罪ヲ得テ獄ニ  
 下サル人ノ請フ所トナリ免ル、ヲ得タリ然レモ猶ホ  
 功ヲ負ヒ怨望ス太子ノ暗劣ナルニ乘シ之レヲ圖ラン  
 ト欲ス因テ之レニ反ヲ勸ム事覺ル之レヲ鞠問ス反形

已ニ具ハル詔シ廢ノ庶人ト爲ス君集等誅ニ伏ス泰モ亦タ險詐ヲ以テ立ツヲ得ス晋王治ヲ立テ太子ト爲ス

太宗親カラ高麗ヲ征ス

唐ノ太宗ノ時高麗ノ泉蓋蘇文其君ヲ弑ス新羅又タ使ヲ遣ハシテ言フ百濟高麗ト兵ヲ連テ新羅入貢ノ路ヲ絶タント謀ルト兵ヲ乞ヒ救援ス貞觀十八年帝親カラ高麗ヲ征セントシ遂ニ先ツ洛陽ニ如ク明年洛陽ヲ發シ定州ニ至ル諸軍ヲ進メ遼水ヲ渡リ遼東城ヲ拔キ白巖城ヲ降シ安市城ヲ攻メ大ニ其救兵ヲ城下ニ破ル安市城險ニシテ兵精ク堅ク守リテ下ラス議者烏骨城

ヲ拔キ鴨綠水ヲ渡リ直チニ平壤ヲ取ント欲ス其本根ヲ覆ヘサハ餘ハ戰ハスシテ降スヘシト或人又タ謂フ親征ハ諸將ニ異ナリ危キニ乘スヘカラスト帝以爲ラク遼左ハ早寒草枯レ水凍テ士馬久シク留マリ難シ且ツ糧將ニ盡ントスト敕シテ師ヲ班ス是ノ行十城ヲ拔キ戶口七萬ヲ徙シ三ヒ大戰シ斬首四萬餘級然レ此戰士死スルモノ幾ント三千人戰馬死スル什ニ七八功ヲ成ス能ハス深ク之レヲ悔ユ歎ノ曰ク魏徵若シ在ラハ我ヲシテ此ノ行アラシメスト是レヨリ先キ魏徵嘗テ侯君集ヲ薦ム君集坐シテ誅セララル、ニ及ヒ帝始メテ

徵カ阿黨スルト疑フ又言フモノアリ徵自ラ前後ノ諫  
辞ヲ録シテ起居郎褚遂良ニ示スト帝愈々悦ヒス因テ  
立ツル所ノ碑ヲ踏ス是ニ至リ命シテ驛ヲ馳セ徵ヲ祠  
ルニ少牢ヲ以テシ復タ製スル所ノ碑ヲ立ツ

回紇歸降ス

唐ノ太宗貞觀二十年帝靈州ニ如キ李世勣ヲシテ薛延陀  
ヲ撃タシム破リテ之レヲ降シ敕勒ノ諸部ヲ招諭ス回  
紇等十一姓各々使ヲ遣ハシ命ニ歸シ官司ヲ置ンテ乞  
フ詔シテ曰ク朕聊カ偏師ニ命シ遂ニ頡利ヲ擒ニシ始  
メテ廟畧ヲ弘ム已ニ延陀ヲ滅シ鐵勒百餘万户請フテ

州郡ト爲ル混元ヨリ以降殊ニ未タ前聞セス宜シク禮  
ヲ備ヘテ廟ニ告クヘシト仍テ天下ニ頒チ示ス帝詩ヲ  
爲リ曰ク耻ヲ雪メテ百王ニ酬ヒ兇ヲ除キテ千古ニ報  
スト石ニ靈州ニ刻ム

太宗創業守成ヲ論ス

唐ノ太宗嘗テ侍臣ニ問テ曰ク創業ト守成ト孰レカ難  
シト房玄齡曰ク草昧ノ初メ羣雄並ヒ起リ力ヲ争フテ  
而テ後チ之レヲ臣トス創業ヲ難シトスト魏徵曰ク古  
ヨリ帝王之レヲ艱難ニ得テ之レヲ安逸ニ失ハサルナ  
シ則チ守成ヲ難シトスト帝曰ク玄齡ハ吾レト共ニ天

ナリ入テハ相トナルハ臣李靖ニ如カス敷奏詳明ニ出  
納唯タ允トナルハ臣彦博ニ如カス繁ニ處リ劇ヲ治メ  
衆務畢ク舉ルハ臣戴胄ニ如カス君ノ堯舜ニ及ハサル  
ヲ耻チ諫諍ヲ以テ己レノ任ト爲スハ臣魏徵ニ如カス  
濁ヲ激シ清ヲ揚ケ惡ヲ嫉ミ善ヲ好ムハ臣數子ニ於テ  
亦タ微長アリテ帝深ク以テ然リト爲ス衆モ亦タ其確  
論ニ服スト云フ永寧郡公ニ封セラル貞觀七年禁中ノ  
語ヲ漏泄スルニ坐シ同州ノ刺史ニ左遷セラル復タ召  
レテ禮部尙書ト爲リ魏王泰ノ師ヲ兼ヌ十三年卒ス珪  
ノ性寛裕ニシテ自ラ奉スルヲ甚タ薄シ令ニ於テ三品

以上當ニ家廟ヲ立ツヘシ而テ珪ハ寢ニ祭ル法司ノ劾  
スル所トナル帝問ハス有司ニ命シ之レカ爲メニ廟ヲ  
立テ以テ之レヲ愧カシメテ罪セス

魏徵ノ畧傳

魏徵字ハ玄成魏州曲城ノ人ナリ初メ李密ニ從フ後チ  
唐ニ歸ス隱太子引テ洗馬ト爲ス太宗秦王タリシ時功  
名日ニ盛ンナリ徵常ニ太子ニ説テ早ク秦王ヲ除クヲ  
勸ム建成敗レ秦王太子ト爲ルニ及ヒ徵ヲ召ス謂テ曰  
ク汝何爲ソ我兄弟ヲ離間スルト徵舉止自若タリ對ヘ  
テ曰ク先太子早ク徵カ言ニ從ハ、必ス今日ノ禍無ケ

ント太子容ヲ改メ之レテ禮ス引テ詹事主簿ト爲ス位  
 ニ即テ諫議太夫ト爲ス後數々引テ臥内ニ入レ訪フニ  
 得失ヲ以テス徵知テ言ハサル無シ貞觀三年秘書監ニ  
 守タリ王珪房玄齡杜如晦ト與ニ朝政ニ參預ス專ラ仁  
 義ヲ以テ帝ニ勸メ遂ニ貞觀ノ治ヲ成ス七年春帝玄武  
 門ニ宴ス七德九功ノ舞ヲ奏ス魏徵帝ノ武ヲ偃セ文ヲ  
 修メンコトヲ欲ス宴ニ侍スル毎ニ七德ノ舞ヲ見テハ輒  
 チ首ヲ挽シテ視ス九功ノ舞ヲ見テハ則チ之レヲ締觀  
 ス七德ノ舞ハ秦王破陣ノ樂ナリ九功ノ舞ハ功成慶善  
 ノ樂ナリ王珪卒ス徵代リテ侍中ト爲リ鄭國公ニ封セ

ラル十三年夏早ス五品以上ニ詔シテ事ヲ言ハシム徵  
 言フ陛下貞觀ノ初メニ比スレハ漸ク終リテ克クセサ  
 ル者十條アリト帝深ク獎歎ス徵容貌中人ニ逾ヘス而  
 テ膽畧アリ善ク人主ノ意ヲ回ス毎ニ顔ヲ犯シテ苦諫  
 ス或ハ帝怒ル甚シキモ亦タ之レカ爲メニ威ヲ霽ラス  
 帝嘗テ佳鷄ヲ得テ自ラ之レヲ臂ニス徵ノ來ルヲ望見  
 シテ懷中ニ匿ス徵事ヲ奏スル故ラニ久フス鷄竟ニ懷  
 中ニ死スソノ帝ノ爲メニ憚カラル此クノ如シ後チ太  
 子太師ト爲ル十七年卒ス帝自ラ碑文ヲ製シ石ニ書ス  
 侍臣ニ謂テ曰ク人銅ヲ以テ鏡ト爲サハ以テ衣冠ヲ正

スヘシ古ヲ以テ鏡ト爲サハ以テ興替ヲ見ルヘシ人ヲ以テ鏡ト爲サハ以テ得失ヲ知ルヘシ徵没シテ朕一鏡ヲ亡フト

房玄齡ノ略傳

房玄齡字ハ喬齊州臨淄ノ人ナリ唐ノ太宗ノ秦王タリシ時杜如晦等ト俱ニ文學館ノ學士ト爲ル如晦ノ外ニ補セラレヤ玄齡奏シテ之レヲ留ム帝ノ位ニ即クニ及ヒ左僕射ト爲リ王珪如晦魏徵ト與ニ朝政ニ參預ス玄齡吏事ニ明達シ輔クルニ文學ヲ以テス夙夜心ヲ盡クシ惟タ一物モ所ヲ失ハンヲ恐ル法ヲ用ユルヲ寬平

ナリ人ノ善アルヲ聞ク己レ之レヲ有スルカ若シ備ハルヲ求ムルヲ以テ人ヲ取ラス己レノ長ヲ以テ物ヲ律セス如晦ト士類ヲ引拔シ常ニ及ハサルカ如クス帝玄齡ト事ヲ謀ル毎ニ必ス曰ク如晦ニ非サレハ決スル能ハスト如晦至ルニ及ヒ卒ニ玄齡ノ策ヲ用ユ蓋シ玄齡ハ善ク謀リ如晦ハ能ク斷スルナリ二人心ヲ同フシ國ニ徇フ故ニ唐ノ世賢相ヲ稱スル房杜ヲ推スト云フ梁國公ニ封セラレ未タ幾ハクナラスシテ太子少師ヲ加ヘラル玄齡自ラ揣揆ニ居ルヲ十一年男ハ帝ノ女高陽公主ニ尙シ女ハ韓王ノ妃タルヲ以テ深ク滿盈ヲ恐レ

上表シテ機務ヲ解カン<sub>一</sub>ヲ請フ詔シテ許サス頃ラク  
シテ司空ニ進ミ仍ホ朝政ヲ總フ後太子太傅ト爲ル貞  
觀二十五年疾ヒ篤シ上疏シテ高麗ヲ征スルノ師ヲ罷  
ムルヲ諫ム帝自ラ臨視シ手ヲ握リ與ニ訣ル悲ミ自ラ  
勝ヘス竟ニ卒ス

杜如晦ノ畧傳

杜如晦字ハ克明京兆杜陵ノ人ナリ少クシテ英爽ナリ  
書ヲ喜ヒ風流ヲ以テ自カラ命ス内大節ヲ負ヒ機ニ臨  
ミ輒チ斷ス唐ノ太宗ノ秦王タリシ時房玄齡ト與ニ文  
學館ノ學士ト爲ル太宗位ニ即クニ及ヒ兵部尙書ニ遷

リ蔡國公ニ封セラル右僕射ト爲リ玄齡ト俱ニ心ヲ同  
フシテ國ニ徇フ未タ幾ハクナラスシテ疾ヒヲ以テ位  
ヲ遜ル疾ヒ篤キニ及ヒ帝太子ヲ遣ハシ疾ヒヲ問ハシ  
メ又タ自ラ之レヲ臨視ス貞觀四年竟ニ卒ス後チ帝語  
及ヘハ必ス涕ヲ流ス玄齡ニ語テ曰ク公如晦ト同シク  
朕ヲ佐ク今獨リ公ヲ見テ如晦ヲ見スト

李勣左僕射ト爲ル

唐ノ太宗嘗テ帝範十二篇ヲ作り以テ高宗ニ賜フテ曰  
ク修身治國盡ク其中ニ在リ一旦不諱ナルモ更ニ言フ  
ナシト又タ高宗ニ謂テ曰ク李勣ハ才知餘リアリ然レ

臣汝之レト恩ナシ我レ今之レヲ黜ケン我レ死セハ用  
ヒテ僕射ト爲シ之レヲ親任セヨ若シ徘徊顧望セハ當  
ニ之レヲ殺スヘシト乃チ世勣ヲ左遷シテ疊州ノ都督  
ト爲ス勣詔ヲ受ケ家ニ至ラスシテ去ル高宗位ニ即ク  
ニ及ヒ首トシテ李勣ヲ以テ左僕射ト爲ス尋テ司空ト  
爲ス

高宗武昭儀ヲ立テ后ト爲ス

唐ノ高宗永徽五年太宗ノ才人武氏ヲ以テ昭儀ト爲ス  
明年皇后王氏ヲ廢シ武昭儀ヲ立テ后ト爲サント欲ス  
許敬宗李義府之レヲ賛ク褚遂良可カスシテ曰ク皇后

ハ名家ノ子先帝陛下ノ爲メニ之レヲ娶リ崩スルニ臨  
ミ陛下ノ手ヲ執リ臣ニ謂テ曰ク朕ノ佳兒佳婦今以テ  
卿ニ附ス大故アルニアラスンハ廢スヘカラサルナリ  
ト高宗聽カス明日遂良復タ諫ム時ニ昭儀簾中ニ在リ  
大言シテ曰ク何ソ此ノ獠ヲ撲殺セサルト長孫無忌韓  
瑗等モ亦タ固ク諫ム高宗皆納レズ他日李勣入りテ見  
ユ高宗之レニ問フ勣ノ曰ク此レ陛下ノ家事何ソ必ス  
シモ更ニ外人ニ問ハント事遂ニ決ス褚遂良貶セラレ  
潭州ニ都督タリ李義府參知政事タリ義府貌温恭ナル  
カ若ク人ト語ル必ス嬉怡微笑ス而テ狡險忌刻ナリ時



人謂フ笑中ニ刀アリト又々其柔ニシテ物ヲ害スルヲ以テ之レヲ李猫ト謂フ

武后王氏蕭氏ヲ殺ス

唐ノ高宗永徽六年武氏既ニ后トナリ故ノ后王氏淑妃蕭氏並ニ別院ニ囚ハル高宗毎ニ之レヲ念ヒ間行シテ其所ニ至リ之レヲ呼フ王后泣テ曰ク至尊若シ疇昔ヲ念ハ、再ヒ日月ヲ見ルヲ得セシメヨト高祖曰ク朕即チ處置アリト武后之レヲ聞キ大ニ怒リ人ヲ遣リ其手足ヲ斷去セシメ之レヲ酒甕中ニ投ス曰ク二嫗ヲシテ骨醉セシムト數日ニシテ皆死ス

李善感奉天宮ヲ作ルヲ諫ム

唐ノ高宗永淳元年奉天宮ヲ嵩山ノ南ニ作ラントス監察御史李善感ナルモノアリ諫メテ曰ク陛下既ニ泰山ニ封シ太平ヲ告ケ羣瑞ヲ致シ三皇五帝ト隆ヲ比ス今數年稔ラス餓殍相望ミ四夷交々浸シ兵車歲ニ駕ス陛下宜シク恭默道ヲ思ヒ以テ災譴ヲ禳フヘシ更ニ宮室ヲ營ミ勞役休マス天下望ミヲ失ハサルナシト高宗納レス時ニ褚遂良韓瑗ノ死シテヨリ中外敢テ諫ムル者ナキ幾ント二十年善感始メテ諫ムルニ及ヒ天下皆喜ヒ之レヲ鳳朝陽ニ鳴クト謂フ

則天武氏ハ故ノ荊州ノ都督武士護カ女ナリ年十四ニシテ唐ノ太宗其美ヲ聞キ召シテ後宮ニ入レオ人ト爲ス時ニ天下ノ歌曲ヲ嫉媚娘ト名ク已ニ讖ヲ成ス貞觀ノ末ニ太白數々晝見ハル大史占ヒ云フ女主昌ンナラント又々秘記ヲ傳フ唐三世ノ後チ女主武王代リテ天下ヲ有タント太宗之レヲ惡ム武衛將軍李君羨爲ニ讒ヲ以テ誅セラル帝密カニ太史李淳風ニ問フニ秘記ノ云フ所ヲ以テス對ヘテ曰ク臣仰キテ天象ヲ觀ルニ俯シテ曆數ヲ察スルニ其人已ニ陛下ノ宮中ニ在リ二十年ニ過キスシテ當ニ天下ニ王タルヘシ唐ノ子孫ヲ殺

シテ殆シト盡キン其兆已ニ成レリト帝崩スル時武氏二十四尼ト爲リ安業寺ニ在リ忌日ニ高宗寺ニ幸シ香ヲ行フ之レヲ見テ泣ク王皇后之レヲ聞キ陰カニ髮ヲ長セシメ後宮ニ入レ以テ淑妃ノ寵ヲ間セント欲ス武氏巧慧ニシテ權數多シ遂ニ昭儀ヨリ后ト爲ル父士護ニ周國公ヲ贈ル尋テ大原王ヲ加贈ス高宗風眩ヲ苦ミ百司ノ奏事ヲ視ル能ハス或ハ皇后ヲシテ之レヲ決セシム后性明敏ニシテ文史ニ涉獵ス事ヲ處スル皆旨ニ稱フ是レニ由テ委ヌルニ政事ヲ以テス權人主ト均シ人之レヲ二聖ト謂フ高宗崩シ中宗位ニ即ク嗣聖元年

帝ヲ廢シ廬陵王ト爲シ其弟旦ヲ立ツ后朝ニ臨ミ制ヲ  
稱シ武氏ノ七廟ヲ立ツ遂ニ大ニ唐ノ宗室ヲ殺シ自ラ  
墨ト名ケ皇帝ト稱シ國ヲ周ト號ス旦ヲ以テ皇嗣ト爲  
シ姓ヲ武ト改ム初メ僧懷義ヲ寵ス後チ張易之張昌宗  
ヲ寵ス兄弟中ニ居テ事ヲ用ユ李敬業兵ヲ起シテヨリ  
太后人心ノ服セサルヲ知り且ツ内行正シカラサルヲ  
以テ人ノ己レヲ議スルヲ畏レ盛ンニ告密ノ門ヲ開ク  
酷吏ヲ用ヒ鍛鍊羅織シ率チ反逆ヲ以テ人ヲ誣ユ誅殺  
勝ケテ紀スヘカラス此ヲ用テ天下ヲ拊制ス然レモ權  
數アリ善ク人ヲ用ユ賢才亦タ之レカ用タルヲ樂ム徐

有功仁恕ニシテ法ヲ執ル魏元忠婁師德狄仁傑姚元崇  
等皆名相ナリ將相多ク人ヲ得タリ

中宗ノ復位

唐ノ中宗嗣聖元年武太后帝ヲ廢シ弟旦ヲ立テ自ラ制  
ヲ稱ス唐ノ宗室人々自ラ危ム柳州ノ司馬英公李敬業  
兵ヲ起シ武氏ヲ討セントス檄ニ曰ク一抔ノ土未タ乾  
カス六尺ノ孤安クニ在ル又タ曰ク試ニ今日ノ域中ヲ  
觀ヨ竟ニ是レ誰カ家ノ天下ソト兵ヲ率ヒテ進ンテ潤  
州ヲ取ル太后李孝逸ヲ將トシ擊テ之レヲ殺ス琅邪王  
冲越王貞並ニ皆兵ヲ擧ケ唐室ヲ回復セントス皆克タ

百九十二  
スシテ死ス十五年武承嗣武三思太子ト爲ンヲ營求  
ス狄仁傑ナルモノ從容トシテ太后ニ言テ曰ク太宗風  
ニ櫛リ雨ニ沐シ親ラ鋒鏑ヲ冒シ以テ天下ヲ定メ之レ  
ヲ子孫ニ傳フ高宗二子ヲ以テ陛下ニ托ス今乃チ之レ  
ヲ他族ニ移サント欲ス乃チ天意ニ非ラサル無キカ姑  
姪ト母子ト孰レカ親シキ陛下子ヲ立ツレハ千秋萬歲  
ノ後太廟ニ配食セン姪ヲ立ツレハ則チ未タ姪天子ト  
爲リ姑ヲ廟ニ附スルモノアルヲ聞カサルナリト墨稍  
々悟ル仁傑又タカメテ之レヲ勸ム遂ニ房州ヨリ盧陵  
王ヲ召シ都ニ還ラシメ立テ、皇太子ト爲ス未タ幾ハ

クナラスシテ張柬之ヲ以テ相ト爲ス墨尋テ疾ヒニ瘕  
ス柬之崔玄暉等ト羽林將軍李多祚等ヲ率井テ兵ヲ舉  
ケ内亂ヲ討シ太子ヲ東宮ニ迎へ關ヲ斬テ入り墨ヲ上  
陽宮ニ遷ス尊號ヲ上ツテ則天大聖皇帝ト曰フ中宗位  
ニ復ス

狄仁傑ノ畧傳

狄仁傑字ハ懷英並州大原ノ人ナリ魏元忠婁師德姚元  
崇等ト共ニ則天武太后ノ相トナル仁傑最モ信重セラ  
ル常ニ國老ト謂ヒ名イハス仁傑人ト爲リ面折廷爭ヲ  
好ム太后常ニ意ヲ屈シテ之レニ從フ嘗テ墨ニ從ヒ遊